

科目名	美容保健Ⅰ（人体の構造および機能）			単位数	1	科目コード		
授業形態	講義			対象学生	1年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	前期	教員実務経験対象	-	
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	1年半、計35回（70時間）のうち前半（人体の構造および機能）である。国家試験は最重要であるが、美容師になるための必要知識、技能、態度の取得、論理的思考、合理的な処理能力社会に対する適応力など職業人教育の観点から授業を進める。また、理解しやすいよう、適宜視聴覚教材を利用する。							
授業の一般目標	1. 美容師国家試験合格レベルの知識習得 2. 頭、顔を中心とする人間の美に関わる美容師に必要な解剖学、生理学の基本知識の習得 3. とくに、皮膚や毛髪に関する深い知識 4. 人間性の醸成							
受講条件	出席率80％以上が前提となる							
事前学習について （テキスト・参考書等）	保健 日本理容美容教育センター							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備 考	
第1回	「理容・美容保健」と理容師・美容師			人体各部の名称/頭部、顔部、頭部の体表解剖学（1）				
第2回	骨格器系			頭部、顔部、頭部の体表解剖学（2）				
第3回				骨の種類と構造/骨の連結				
第4回	筋系			骨格器系とそのはたらき/骨の保健、総合学習、小テスト				
第5回				筋の種類と特徴/主な骨格筋とそのはたらき（1）				
第6回	神経系			表情筋と表情運動、総合学習、小テスト				
第7回				神経系の成り立ち/中枢神経とその働き				
第8回	感覚器系			末梢神経とその働き/神経系の保健、総合学習、小テスト				
第9回				視覚、聴覚、平衡感覚				
第10回				味覚、嗅覚、皮膚感覚、総合学習、小テスト				
第11回	血液・循環器系			血液のあらまし、血球、血液循環の仕組み（1）循環経路				
第12回				血液循環の仕組み（2）心臓と血管、リンパ管系				
第13回				総合学習、小テスト				
第14回	総合学習			第1章体表解剖学、第2章骨角器系、第3章筋系 総復習				
第15回				第4章神経系、第5章感覚器系、第6章血液・循環器系 総復習				
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80％以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度								C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	美容保健Ⅱ（人体の構造および機能）			単位数	1	科目コード		
授業形態	講義			対象学生	1年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	後期	教員実務経験対象	－	
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	1年半、計35回（70時間）のうち前半（人体の構造および機能）である。国家試験は最重要であるが、美容師になるための必要知識、技能、態度の取得、論理的思考、合理的な処理能力社会に対する適応力など職業人教育の観点から授業を進める。また、理解しやすいよう、適宜視聴覚教材を利用する。							
授業の一般目標	1. 美容師国家試験合格レベルの知識習得 2. 頭、顔を中心とする人間の美に関わる保健衛生分野の職業である美容師に必要な人体の構造(解剖学)と機能(生理学)の基本的な知識の習得 3. 人間性の醸成							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について （テキスト・参考書等）	保健 日本理容美容教育センター							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備 考	
第1回	呼吸器系			呼吸器系のあらまし、気道/肺の仕組み				
第2回	消化器系			呼吸運動/呼吸器系の保健、総合学習、小テスト				
第3回				消化器系のあらまし、消化管の仕組み				
第4回				消化管・消化腺のはたらき				
第5回				消化器系の保健、総合学習、小テスト				
第6回	総合学習			第7章呼吸器系、第8章消化器系				
第7回	皮膚の構造			皮膚の表面、皮膚の断面				
第8回				表皮の細胞				
第9回				真皮、皮下組織				
第10回	皮膚付属器官の構造			総合学習、小テスト				
第11回				毛の構造				
第12回				毛の型と毛の成長周期、毛の型の変化、毛の成長				
第13回				毛の性状、立毛筋、脂腺、汗腺、爪				
第14回	総合学習			総合学習、小テスト				
第15回				第1章皮膚の構造、第2章皮膚付属器官の構造				
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度								C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	美容文化論Ⅰ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	日本のさまざまな髪型、化粧、服装の変遷流行を学び来るべき時代の要請に応じられるデザイナーになる。 社会貢献ができる美容業界を目指す。							
授業の一般目標	1. 美容師国家試験（文化論）合格レベルの知識習得 2. 風俗と時代背景とのつながりを読み解く 3. 髪型、化粧、服装とのトータルバランスを学ぶ							
受講条件	出席率80％以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	美容文化論 日本理容美容センター							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備考		
第1回	総論	語義・現代社会・文化史の中の理容、美容、造形要素						
第2回	日本の理容業・美容業の歴史	理容業・美容業の誕生、時代背景に合わせた制度・法令						
第3回		総合学習						
第4回	ファッション文化史 日本編	縄文・弥生・古墳時代の髪型・化粧・服装						
第5回		古代（飛鳥・奈良・平安時代）の髪型・化粧・服装						
第6回		中世（平安末・鎌倉・室町・戦国時代）の髪型・化粧・服装						
第7回		近世Ⅰ（戦国末・安土桃山時代）の髪型・化粧・服装						
第8回		近世Ⅱ（江戸時代）の髪型・化粧・服装						
第9回		近世Ⅱ（江戸時代）の髪型・化粧・服装						
第10回		総合学習						
第11回		近代（明治・大正・昭和20年まで）の髪型・化粧・服装						
第12回		現代Ⅰ（1946年から1950年代）の髪型・化粧・服装						
第13回		現代Ⅱ（1960年代から1970年代）の髪型・化粧・服装						
第14回		現代Ⅲ（1980年代から1990年代）の髪型・化粧・服装 現代Ⅳ（2000年代以降）の髪型・化粧・服装						
第15回		総合学習						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80％以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度								C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D :59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	福井 純子			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/fukui/			

科目名	衛生管理Ⅰ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	公衆衛生の意義、予防衛生、保健衛生、環境衛生、特に美容業務上で必要不可欠な衛生知識などについてテキストに沿って教授すると共に、その時点における社会の動きなどについても教授する。							
授業の一般目標	美容師国家試験合格レベルの知識習得。美容師の社会責任、職業倫理への理解。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	衛生管理 日本理容美容教育センター							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容			備考		
第1回	公衆衛生の概要		公衆衛生の意義を学び、我が国の公衆衛生を知る。					
第2回	公衆衛生の具体的な課題と領域		公衆衛生を知り、出生率、死亡率、乳児死亡率、平均寿命。					
第3回	美容師と公衆衛生		歴史にみる理容美容と公衆衛生。保健所の役割を知る。					
第4回	予防医学と保健		予防医学の目的と意義を知る。母子保健と統計について学ぶ。					
第5回	成人、高齢者保険		生活習慣病とその対策を知り、健康日本21の概要を理解させる。					
第6回	栄養と食物		栄養素とそのはたらきを知る。現代の食生活の問題点を考える。					
第7回	医療介護の制度		日本の医療、保険制度について理解する。					
第8回	環境衛生を学習する目的		環境の自然や人々の健康に及ぼす影響を知る。					
第9回	環境衛生		家庭、学校、事業所、営業施設、公共団体による公衆衛生。					
第10回	空気、水、日光		空気、温度、湿度、気流、水と健康。					
第11回	日光と健康		日光の種類を知り衣食住の役割を理解する。食中毒について考える。					
第12回	住居の衛生		採光、照明、換気の役割を知る。上下水道と廃棄物を理解する。					
第13回	衛生害虫とネズミ		衛生害虫の被害や駆除の方法を知る。公害についての理解を深める。					
第14回	美容所の環境衛生		不特定多数が出入りする環境を知り、管理能力を高める。					
第15回	実習室の衛生状態を確認		温度、湿度、換気、照明、器具類の管理。					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				50	A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度								C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	美容技術理論Ⅰ			単位数	1	科目コード		
授業形態	講義			対象学生	1年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	前期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	美容師としての心構え、美容技術の基礎理論を学ぶ事によって、美容技術の理解を高め、美容実習につなげていく。科学的根拠と系統だった理論を理解することにより、より良い技術と心をお客様に提供できる美容師をめざす。							
授業の一般目標	・美容師国家試験（美容技術理論論）合格レベルの知識習得 ・現在の美容技術は薬剤の発展と共に複雑化し、正確に行わないと危険を伴うこともある。ここでは美容技術の基礎となる理論を学び、理論に基づいた正確な技術の修得をめざす。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	美容技術理論 1 美容実習 1 日本理容美容教育センター							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	序章 美容技術理論を学ぶにあたって	美容理論と美容技術について 美容技術における作業姿勢 美容技術に必要な人体各部の名称						
第2回	1章 美容用具	美容用具の特徴、各部の名称、取り扱い方						
第3回		美容用具の選定法と手入れ法						
第4回	2章 シャンプーイング	シャンプーイングの目的、シャンプー剤の成分						
第5回		シャンプーイングの注意点・シャンプー技術の違い(バックシャンプーとサイドシャンプー)						
第6回		リンス・コンディショナー・トリートメントの種類と成分、目的						
第7回		スカルプトリートメントの目的、技術手順 頭皮のトラブル、ヘッドスパ						
第8回	3章 ヘアデザイン	総合学習						
第9回		錯覚現象・デザインの要素						
第10回		デザインの原理						
第11回	4章ヘアカッティング	ヘアカッティングの目的 美容刃物の材質						
第12回		ヘアカッティングの基礎理論 各技法によるヘアスタイルの構成						
第13回		シザーズによる各カット技法の特徴と違い、効果						
第14回		レザーによる各カット技法の特徴と違い、効果						
第15回		総合学習						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度								C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	福井 純子			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/fukui/			

科目名	美容技術理論Ⅱ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	美容師としての心構え、美容技術の基礎理論を学ぶ事によって、美容技術の理解を高め、美容実習につなげていく 科学的根拠と系統だった理論を理解することにより、より良い技術と心を、お客様に提供できる美容師をめざす。							
授業の一般目標	・美容師国家試験（美容技術理論論）合格レベルの知識習得 ・現在の美容技術は薬剤の発展と共に複雑化し、正確に行わないと危険を伴うこともある。ここでは美容技術の基礎となる理論を学び、理論に基づいた正確な技術の修得をめざす。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	美容技術理論 1 美容実習1 日本理容美容教育センター							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備考		
第1回	パーマメントウェーブの理論	ウェーブが形成される仕組み パーマ剤の分類・種類・注意事項						
第2回	パーマメントウェーブ技術	毛髪診断、施術前に適さないシャンプー剤 ロッドの選定・配列 ブレ処理（毛髪の状態をコンディショニング）、ワインディング						
第3回		1剤塗布、放置タイム テストカールで見る適正カールの状態、中間リンス						
第4回		2剤塗布、ロッドアウト、ブレーション・アフターリンスの目的 ウェーブチェック、スタイリング						
第5回	ワインディングのバリエーション	ロッドの巻き方と・各種ロッドの種類と特徴 宿毛矯正						
第6回	ヘアセッティングとは	オリジナルセットとリセットの違い（基本的な要素）						
第7回	ヘアカーリング	カールの各部の名称と4つの分類 ステムの方向と角度の関係						
第8回		ループの大きさ、毛先の扱い方とウェーブ幅 カールビニングの種類と技術上の注意点						
第9回		各種カール技術の手順とピンをとったところの特徴						
第10回	ウェービング	ヘアウェーブの名称 ウェーブをつくる方法と形状の分類						
第11回		ピンカールがつくり出すウェーブ スキップウェーブ・ターンシステムとは						
第12回	スタイリング	ローラーカーリング・ブロードライ・アイロンセッティング・アップスタイル・ウィッグとヘアピース						
第13回	ヘアカラー剤	ヘアカラーの種類とタイプ別特徴 種類別の染毛メカニズム						
第14回	注意事項	色の基本、毛髪のレベルとアンダートーン 皮膚炎とパッチテスト、						
第15回	技術手順	毛髪診断と色の出方 技術手順						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度								C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	

担当教員	福井 純子	実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/fukui/
------	-------	--------	---

科目名	香粧品化学Ⅰ			単位数	1	科目コード		
授業形態	講義			対象学生	1年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	後期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	実学としての香粧品化学を理解できるように授業を進める。また、「関係法規・制度」、「衛生管理」、「理容・美容保健」など、他教科との関連性についても適宜述べる。							
授業の一般目標	1. 美容師国家試験合格レベルの知識習得 2. 人の生体の成分に化学変化を与える香粧品の基本知識の習得し、その危険性について認識する。 3. 香粧品化学の知識・理解を深め美容の専門家への道を拓く。 4. 人間性の醸成							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	香粧品化学 日本理容美容センター							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	1 物質の構造	物質の構成成分（混合物・純物質・単体・化合物）について復習する						
第2回		原子の構造・電子配置・イオンについて復習する						
第3回		イオン結合と組成式・イオンからなる物質を学ぶ						
第4回		共有結合と分子構造・分子からなる物質・水素結合・無極性物質・極性物質について学ぶ						
第5回		原子量・分子量についての確認・物理変化と化学変化の違い・化学反応式・化学反応の速さについて学ぶ						
第6回	2 溶液とコロイド	溶液と溶解の仕組み・溶解度と濃度について学ぶ。						
第7回		コロイドの定義と種類・ミセルとエマルジョンについて学ぶ						
第8回	3 酸と塩基と塩	酸と塩基の性質・水素イオン指数について学ぶ						
第9回		中和反応と塩・緩衝作用と緩衝液について学ぶ						
第10回	4 酸化還元反応	酸化と還元の定義と酸化還元反応と香粧品について学ぶ						
第11回	5 有機化合物)	鎖式炭化水素・環式炭化水素・官能基（ヒドロキシル基・カルボニル基・アルデヒド基・カルボキシル基）について学ぶ						
第12回	(低分子化合物)	アミノ基・官能基どうしが結合した炭化水素（エステル・油脂）・エステル化・けん化について学ぶ						
第13回	(高分子化合物)	天然高分子化合物（多糖類・デンプン・セルロース）について学ぶ						
第14回		天然高分子化合物（たんぱく質）・合成高分子化合物について学ぶ						
第15回	化学分野のまとめ	国試筆記化学分野の出題傾向と対策問題練習						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				50	A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度								C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	運営管理(ビジネスと仕事の実践)			単位数	1	科目コード		
授業形態	講義			対象学生	1年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	前期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	美容をビジネスの観点から見ていく。サロン経営、店舗運営に直結する内容を講義するとともに、最新の美容業界の動きもつねにチェックする。							
授業の一般目標	美容業界をビジネスの観点から分析できる力を身につけます。そして皆さんが就職したときに、そして将来サロンを持つときに、店長になったときに役立つ知識とビジネス感覚を養う。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	『運営管理』日本理容美容教育センター							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備考	
第1回	オリエンテーション			授業の進め方と心構えについて				
第2回	美容業の現状について			現在の美容業はどのような状況なのか				
第3回	経営とは何か？			経営・マネジメントの視点がなぜ必要か				
第4回	労務管理 1			美容業と労務管理				
第5回	労務管理 2			美容業と人事管理 美容業と社会保障制度労務管理に関する知識				
第6回	経営管理 1			企業の形態 美容業と料金				
第7回	経営管理 2			美容業と経理 美容業の簿記と税務				
第8回	マーケティング 1			なぜマーケティングを学ぶのか マーケティングの基本的な考え方				
第9回	マーケティング 2			マーケティング戦略 競争とポジショニング				
第10回	マーケティング 3			美容業のためのマーケティング 戦略の立て方				
第11回	顧客満足経営			顧客満足経営とはどのような経営なのか 売上志向から顧客志向へ				
第12回	サロン起業 1			サロンの起業とはどのようなものか サロンの起業には何が必要か				
第13回	サロン起業 2			繁盛店を考えてみよう 1				
第14回	サロン起業 3			繁盛店を考えてみよう 2				
第15回	サロン起業 4			今後の美容業はどうなっていくのか				
q								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度								C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	関係法規・制度			単位数	1	科目コード		
授業形態	講義			対象学生	1年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	前期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	美容師法などの美容師の業務に関する衛生法規や制度、消費者の保護法規や制度、また、公衆衛生を担う美容師の社会責務、職業倫理について勉強する。							
授業の一般目標	1. 美容師国家試験(関係法規・制度)合格レベルの知識習得 2. 美容師の社会責任・職業倫理への理解 3. 美容師制度に関する法的規制、制度の理解 4. 人間性の醸成							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	関連法規・制度 日本理容美容教育センター							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備考	
第1回	法制度の概要			社会生活における法の役割を理解し、法の種類、特にわが国における法の体系を学ぶ。				
第2回	衛生法規の概要と法と行政の関係			衛生行政の目的を完遂するための法規および、国と地方が行なう行政の関係を学ぶ。				
第3回	衛生行政の意義と歴史			社会公共の立場から公衆の健康の保持と増進を公衆衛生の向上を図るために、衛生法規に基づいておこなう行政の歴史を振り返り、その意義を理解する。				
第4回	衛生行政の種類と衛生行政機関			衛生行政の種類としくみ、それらを所管する機構と役割について述べる。				
第5回	美容師法の目的と歴史			美容業を衛生面から規制し、公衆衛生の維持と増進を図る美容師法の目的を述べ、その歴史を振り返る。				
第6回	美容師法の体系用語の定義			美容師法の内容について概観。その構成、運用に当たる行政機関、および美容師法の内容を理解するための用語について学習する。特に、美容、美容師、美容所の違いについて。				
第7回	美容師 (1)			美容師の資格制度を理解する。美容師の養成、試験、免許の仕組み、等について説明する。				
第8回	美容師 (2)			美容師の免許と登録について説明する。				
第9回	美容師 (3)			美容師が業務活動を行なうときに守らねばならない義務について説明する。				
第10回	美容所 (1)			美容所開設の届出、施設の検査確認、美容所が講ずべき措置等の規制について説明する。				
第11回	美容所 (2)			美容所以外での業務について説明する。				
第12回	違反者に対する行政処分および罰則			美容師法の規定に違反する状態が生じたときに行なわれる、美容師および美容所に対する処分および罰則について説明する。				
第13回	美容師会および美容師法の復習			美容師会および美容師法の復習				
第14回	関連法規 (1)			将来、美容師になりまた美容所を経営する場合に知っておくことが望ましい法律について説明する。				
第15回	関連法規 (2) および 美容師試験			同上 (つづき) および 美容師試験対策。				
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				50	A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度								C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得

2022年度 シラバス

演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	美容実習(カット基礎)		単位数	1	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	スタイリストとしてサロンワークに直結した内容を学び、美容師としての奥深さを知る							
授業の一般目標	wigを3～4台使用し、ベーシックカット～デザインカットの基礎までを理解する→最終日には作品提出を行い、ベーシックデザインを理解する。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	美容技術理論 1 美容実習1 日本理容美容教育センター							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備考		
第1回	ヘアカッティング基礎知識を知る	シザーズの持ち方開閉とカットの正しい姿勢				テキスト		
第2回	ヘアカッティング基礎知識を知る	カット技術の専門用語を学ぶ				テキスト		
第3回	wig①ワンレングスカット	カット展開図からパネルの引き出し・角度・スライス				ウイッグ①・テキスト		
第4回	wig①ワンレングスカット	前回の授業の復習。スタイル理解・仕上げブロー・スタイリング				ウイッグ①・テキスト		
第5回	wig①グラデーションカット	カット展開図からパネルの引き出し・角度・スライス				ウイッグ①・テキスト		
第6回	wig①グラデーションカット	前回の授業の復習。スタイル理解・仕上げブロー・スタイリング				ウイッグ①・テキスト		
第7回	wig①レイヤーカット	カット展開図からパネルの引き出し・角度・スライス				ウイッグ①・テキスト		
第8回	wig①レイヤーカット	前回の授業の復習。スタイル理解・仕上げブロー・スタイリング				ウイッグ①・テキスト		
第9回	wig②メンズカット	カット展開図からパネルの引き出し・角度・スライス				ウイッグ②・テキスト		
第10回	wig②セიმレイヤー	カット展開図からパネルの引き出し・角度・スライス				ウイッグ②・テキスト		
第11回	wig②セიმレイヤー	前回の授業の復習。スタイル理解・仕上げブロー・スタイリング				ウイッグ②・テキスト		
第12回	wig②ショートレイヤー	カット展開図からパネルの引き出し・角度・スライス				ウイッグ②・テキスト		
第13回	wig②ショートレイヤー	前回の授業の復習。スタイル理解・仕上げブロー・スタイリング				ウイッグ②・テキスト		
第14回	wig③作品作成①	履修内容を活かし自由に作品作成し提出(サロン・教員で審査)				ウイッグ③・テキスト		
第15回	wig③作品作成②	履修内容を活かし自由に作品作成し提出				ウイッグ③・テキスト		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎							S(4):90点以上
小テスト								A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度			○					C(1):60点以上
発表・作品					◎		100	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	福井 純子			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/fukui/			

科目名	美容実習(パーマ基礎)		単位数	1	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	スタイリストとしてサロンワークに直結した内容を学び、美容師としての奥深さを知る							
授業の一般目標	ベーシックパーマを理解する一カットスタイルに合わせたパーマ技術を施術できる							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	美容技術理論 1 美容実習1 日本理容美容教育センター							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	パーマ技術の基礎知識を知る	ケミカルの基本・薬剤選定について				ウィッグ①・テキスト		
第2回	wig①前期で使用したレイヤーカットウィッグ	パーマバリエーション～縦巻き・横巻き・斜め巻き						
第3回	wig①前期で使用したレイヤーカットウィッグ	毛先巻き・中間巻き・逆巻き・スパイラル巻き						
第4回	wig①前期で使用したレイヤーカットウィッグ	パーマバリエーション～縦巻き・平巻き・斜め巻き						
第5回	wig①前期で使用したレイヤーカットウィッグ	毛先巻き・中間巻き・逆巻き・スパイラル巻き						
第6回	wig②前期で使用したショートレイヤーウィッグ	パーマバリエーション～縦巻き・平巻き・斜め巻き				ウィッグ②・テキスト		
第7回	wig②前期で使用したショートレイヤーウィッグ	毛先巻き・中間巻き・逆巻き・スパイラル巻き						
第8回	wig②前期で使用したショートレイヤーウィッグ	効果的な技法選定・施術						
第9回	wig②前期で使用したショートレイヤーウィッグ	効果的な技法選定・施術						
第10回	wig③前期作品作成で使用したデザインウィッグ	パーマバリエーション～縦巻き・平巻き・斜め巻き				ウィッグ③・テキスト		
第11回	wig③前期作品作成で使用したデザインウィッグ	効果的な技法選定・施術						
第12回	wig③前期作品作成で使用したデザインウィッグ	効果的な技法選定・施術						
第13回	wig④作品作成Ⅰ	カットスタイル～効果的なパーマ技術を施す				ウィッグ④・テキスト		
第14回	wig④作品作成Ⅱ	カットスタイル～効果的なパーマ技術を施す						
第15回	wig④作品作成Ⅱ	カットスタイル～効果的なパーマ技術を施す						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎							S(4):90点以上
小テスト								A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度			○					C(1):60点以上
発表・作品					◎		100	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	福井 純子			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/fukui/			

科目名	美容実習(カラー基礎)		単位数	1	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	スタイリストとしてサロンワークに直結した内容を学び、美容師としての奥深さを知る							
授業の一般目標	ベーシックカラーを理解するーカットスタイルに合わせたカラー技術を施術できる							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	JHCAヘアカラー入門 ①ウィッグは美容実習カット基礎で使用したものを使う ②のウィッグは新品を使用する							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備考		
第1回	カラー技術の基礎知識を知る	カラー塗布のバリエーション 薬剤選定・ブロッキング				ウィッグ①・テキスト		
第2回	wig①前期で使用したレイヤーカットウィッグ	グレイカラー・塗布手順・注意事項						
第3回	wig①前期で使用したレイヤーカットウィッグ	グレイカラー リタッチ塗布手順・注意事項						
第4回	wig①前期で使用したレイヤーカットウィッグ	グレイカラーのワンメイク・塗布手順・注意事項						
第5回	wig①前期で使用したレイヤーカットウィッグ	ファッションカラー・塗布の手順・注意事項						
第6回	wig①前期で使用したレイヤーカットウィッグ	ファッションカラーのワンメイク・塗布手順・注意事項						
第7回	wig①前期で使用したレイヤーカットウィッグ	ファッションカラー リタッチ塗布手順・注意事項						
第8回	wig①前期で使用したレイヤーカットウィッグ	マニキュア塗布・注意事項						
第9回	wig①前期で使用したレイヤーカットウィッグ	マニキュア塗布・リタッチ・注意事項						
第10回	wig①前期で使用したレイヤーカットウィッグ	マニキュア塗布・フルカラー・注意事項						
第11回	wig①前期で使用したレイヤーカットウィッグ	ハイスピード塗布・リタッチ・注意事項						
第12回	wig①前期で使用したレイヤーカットウィッグ	ハイスピード塗布・フルカラー・注意事項						
第13回	wig②作品作成Ⅰ	カットスタイルに合わせた 効果的なカラー技術を施す				ウィッグ②・テキスト		
第14回	wig②作品作成Ⅱ	カットスタイルに合わせた 効果的なカラー技術を施す						
第15回	wig②作品作成Ⅱ	カットスタイルに合わせた 効果的なカラー技術を施す						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎							S(4):90点以上
小テスト								A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度			○					C(1):60点以上
発表・作品					◎		100	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	

担当教員	福井 純子	実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/fukui/
------	-------	--------	---

科目名	美容実習(シャンプー・ヘッドスパ)		単位数	1	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	現場で必要な頭皮理論、ヘッド・スパ技法の習得、及びコンサルテーション能力向上を目指す							
授業の一般目標	頭皮理論とスパシャンプー、クレンジング、リフトアップメソッドの習得。不調の原因、解消法など応対話法の習得							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	資生堂ヘッドスパテキスト							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容			備考		
第1回-2回	シャンプーを知る		シャンプー準備・シャワーの使い方・マッサージ理論					
第3回-4回	シャンプーを知る		シャンプー工程を覚える・効果的なマッサージトレーニング					
第5回-6回	頭皮ケア理論 グロースメソッド・テクニク①		デトックス(スカルプ)マッサージトレーニングを行う					
第7回-8回	テクニク②		リフトアップ(頭皮とリンパ)マッサージトレーニングを行う					
第9回-10回	テクニクまとめ		前回迄の技術を一連の流れで行う			資生堂ディプロマ取得		
第11回-12回	理論・マッサージ技術検定		前回迄の技術を一連の流れで行う					
第13回-14回	コンサルテーション理論		筆記、技術に関するチェックテストを受験する					
第15回	コンサルテーション実習		コンサルテーションについて、実際に実習する					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎							S(4):90点以上
小テスト								A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度			○					C(1):60点以上
発表・作品					◎		100	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	美容実習(ワインディングⅠ)			単位数	4	科目コード		
授業形態	実習			対象学生	1年生	開設期	半	
区分	必修			開設時期	前期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ワインディング							
授業の一般目標	1. 美容師国家試験合格レベル・コンクールレベルの知識習得 2. ロッド使用しパーマの形成を理解する 3. 人間性の醸成							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	衛生と技術の解説 理容師美容師試験研修センター 美容実習1 美容技術理論1 日本理容美容教育センター							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備 考	
第1回～2回	器具・用具について ブロッッキング・上巻			器具・用具の名称理解・準備の方法を習得・コーミング＆ブロッッキング コーミング5分＆ブロッッキングできる(5分)・上巻き技術				
第3回～6回	ブロッッキング・上巻き・下巻き			ブロッッキング(5分)・上巻き・下巻き技術 ブロッッキング・上巻き・下巻き(センター18分)完成				
第7回	フロントについて			ブロッッキング・上巻き・下巻き(センター18分)フロントのスライス				
第8回～9回	センターからフロント			センター～フロントを巻く センター～フロントを巻く(フロント3本のバランスに注意する)				
第10回～11回	角度スライスの確認			ブロッッキング(5分)・全頭を巻く ブロッッキング(5分)・全頭を巻く(巻残りに気をつける)				
第12回～15回	バックサイドのスライスの取り方			バックサイドのスライスの取り方の理解・巻き方練習(右) バックサイドのスライスの取り方の理解・巻き方練習(左)				
第16回	センター角度スライス			センターを角度の確認をし巻く				
第17回～25回	ワインディング全頭			ブロッッキング(9ブロック・5分)・時間内に全頭を巻く ブロッッキング(9ブロック・5分)・正しいスライス・角度で時間内に全頭を巻く			目標:50分	
第26回～29回	ワインディング全頭			ブロッッキング(9ブロック・5分)時間内に全頭を巻く・正しいスライス・角度・(オンベース・1/2オフベース)				
第30回～33回	ワインディング全頭 ①確認テスト			ブロッッキング(9ブロック・5分)時間内に全頭を巻く・正しいスライス・角度・(オンベース・1/2オフベース) フロントのスライスを正しく ※見極めテスト(30分)			目標:30分	
第34回～38回	全頭の角度を把握・時間内の完成			ブロッッキング(9ブロック・4分)全頭を巻く(30分)正しいスライス・角度・フロントのスライスを正しく・ラバーをねじらない・全体のバランス良く				
第39回	衛生の意義と用具類について			衛生の用具類について理解する 衛生と技術の解説DVD				
第40回～42回	衛生の準備について			衛生的に準備(7分)全頭・全体のバランスに気をつける 衛生的に準備(7分)全頭・全体のバランス・ラバー掛けを丁寧にしておくれ毛を出さない			目標:29分	
第43回～44回	衛生準備、全頭の完成(正確さ・綺麗さ・速さ)			衛生的に準備(7分)全頭・1本25秒・ブロッッキング(1分)			目標:28分	
第45回～47回	衛生準備、全頭の完成(正確さ・綺麗さ・速さ)			全頭・1本25秒・ブロッッキング(1分)・衛生に気をつける 衛生的に準備(7分)全頭26分(目標)・1本25秒・ブロッッキング(1分)衛生区分(消毒済・使用中)			目標:27分	
第48回～51回	衛生準備、全頭の完成(正確さ・綺麗さ・速さ) ②確認テスト			衛生的に準備(7分)全頭25分・1本24秒・ ブロッッキング(1分)衛生区分をする ※見極めテスト(25分)・復習			目標:25分	
第52回～53回	全頭の時間配分と時間内完成(正確さ・綺麗さ20分)			準備(7分)センター(6分)・フロント～右サイド(7.5分)左サイド(6.5分) 準備(7分)センター(6分)・フロント～右サイド(7.5分)左サイド(6.5分)通し全頭(20分)				
第54回～57回	期末試験対策 国家試験審査に準じた作品作成			準備(7分)全頭20分×3・全体のバランスと時間配分を考える				
第58回～60回	国家試験合格レベルで作品を仕上げられる			準備(7分)全頭20分×3・構成に注意して巻く(フロントの配列) 衛生準備(7分)・全頭20分～ふき取り作業まで×3回 ※全頭20分で作品を仕上げ衛生面に配慮できる			目標:20分	
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○			◎		100	S(4):90点以上
小テスト								A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度								C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	

担当教員	福井 純子	実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/fukui/
------	-------	--------	---



科目名	美容実習(ウェーブⅠ)		単位数	4	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	半		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ヘアセッティング							
授業の一般目標	1. 美容師国家試験合格レベルへの引き上げ 2. 正確な技術の習得 3. 人間性の醸成 4. セッティングやデザインの復元に富んだ長持ちするコームアウトが容易にできるようになる							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	衛生と技術の解説 理容師美容師試験研修センター 美容実習 1 美容技術理論 1 日本理容美容教育センター							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べるができる。							
☐ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回～2回	理論と基礎技術 ブロッキング 理論と基礎技術 ウェーブ作成	道具説明、馬蹄形にフロントをブロッキングし、ウェーブ実習使用に適した状態に整えローション塗布 イヤtoイヤをブロッキングし、後頭部でフィンガーウェーブ シェーピング(半円)を作る作業						
第3回～9回	理論と基礎技術 ウェーブ・リッジ作成	フィンガーウェーブ シェーピング(半円)、リッジを作る作業 両サイドのブロッキングをはずし、ローションを塗布し2段目からフィンガーウェーブ						
第10回～16回	理論と基礎技術 構成	2段目から7段目のフィンガーウェーブ シェーピング(半円)、リッジを作る作業						
第17回～24回	理論と基礎技術 構成・クロッキノールカール	2段目～6段目のフィンガーウェーブ シェーピング(半円)、リッジを作る作業 7段目クロッキノールカール作成、3段目スカルプチュアカール作成						
第25回	理論と基礎技術 構成・クロッキノールカール	1段目馬蹄形の説明→馬蹄形を作る 1段目スカルプチュアカール作成						
第26回～31回	理論と基礎技術 スカルプチュアカール	1段目スカルプチュアカール→2段目フィンガーウェーブ シェーピング(半円)、リッジを作る						
第32回	理論と基礎技術 スカルプチュアカール	1段目スカルプチュアカール→2段目～6段目のフィンガーウェーブ シェーピング(半円)、リッジ→7 段目クロッキノールカールを作る						
第33回～35回	理論と基礎技術 スカルプチュアカール	1段目スカルプチュアカール→2段目～6段目のフィンガーウェーブ シェーピング(半円)、リッジ→7 段目クロッキノールカールを作る						
第36回～46回	全体の構成とカール・ウェーブのサイズ	1段目スカルプチュアカールの復習(ウェーブ、スライスの取り方、シェーブの方法、ピンニング)→作成 しながら2段目につなげる構成を理解する						
		1段目スカルプチュアカール→2段目～6段目のフィンガーウェーブ シェーピング(半円)、リッジ→7 段目クロッキノールカールを作る						
		7段目クロッキノールカールの復習(ウェーブ、スライスの取り方、シェーブの方法、ピンニング)						
		フロント(スカルプチュアカール)～7段目(クロッキノールカール)まで作成し、全体のバランスみな がら35分で仕上げる事を達成目標とする						
		フロント(スカルプチュアカール)～7段目(クロッキノールカール)まで作成し、全体のバランスみな がら30分で仕上げる事を達成目標とする 正確サイズで仕上げる						
		1段目・・・サイズに忠実に6分目安で作成する						
		2～6段目・・・サイズに忠実に、構成を把握し、2段目～4段目→各3分、5～6段目→各2分、7段目→5分 でウェーブとリッジを作成する(計13分目安)						
第47回～51回	後期期末試験課題作成	1段目：フロント(スカルプチュアカール)、2段目：ウェーブ・リッジ、3段目：ウェーブ・リッジ 4段目：ウェーブ・リッジ、5段目：ウェーブ・リッジ、6段目：ウェーブ・リッジ、7段目：クロッキ ノールカール までを32分で仕上げる事を目標とする			目標			
		全順35分以内に仕上げる						
第52回	確認テスト							
第53回～第60回	後期期末試験課題作成	1段目：フロント(スカルプチュアカール)、2段目：ウェーブ・リッジ、3段目：ウェーブ・リッジ 4段目：ウェーブ・リッジ、5段目：ウェーブ・リッジ、6段目：ウェーブ・リッジ、7段目：クロッキノ ールカール までを29分で仕上げる事を目標とする 1分で全頭チェック手直し 評価項目【国家に准じる】 * 全体の構成が理解出来ている * スカルプチュアカール・クロッキノールカールのサイズ、位置、作り方を 理解している * ウェーブのシェーブを常に床と並行に動かし、面を揃えて正確にCカール を作る事が出来る * 正確なシェーピングをし、ウェーブの面が揃うリッジを作る事が出来る			30分以内			
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○			◎		100	S(4):90点以上
小テスト								A(3):80点以上

宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度								C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

母

科目名		美容実習(メイク)		単位数	2	科目コード		
授業形態		実習		対象学生	1年生	開設期		半期
区分		必修		開設時期	前期	教員実務経験対象		有
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)		JMA3級資格取得の為のベーシックメイク、を身に付ける						
授業の一般目標		JMA3級資格取得						
受講条件		出席率80%以上が前提となる						
事前学習について (テキスト・参考書等)		JMA日本メイクアップ技術検定協会テキスト2・3級						
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点		1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。						
□ 思考・判断の観点		授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。						
□ 関心・意欲の観点		美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。						
□ 態度の観点		日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。						
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	授業の進め方・道具のチェック&手入れ法		授業を受ける際の注意事項・道具の点検と道具の手入れ方法					
第2回	道具の置き方・身だしなみ・ポイントメイクデモ		セッティングや身だしなみ、セルフメイクの仕方					
第3回	ポイントクレンジングデモ・相モデル練習		ウイッグを使ったポイントクレンジングの練習と相モデル練習					
第4回	全体クレンジングデモ・相モデル練習		ウイッグを使った全体クレンジングの練習と相モデル練習					
第5回	クレンジング復習・クレンジング相モデル練習		ウイッグを使った全体クレンジングの復習&相モデル練習					
第6回	化粧水デモ・化粧水相モデル練習		化粧水の相モデル練習					
第7回	ポイントメイククレンジング～化粧水相モデル練習		相モデルにてレッスン					
第8回	プライマーデモ・相モデル練習		プライマー相モデル練習					
第9回	ポイントクレンジング～プライマー相モデル練習		スキンケア総復習相モデル練習					
第10回	コントロールカラーデモ・相モデル練習		コントロールカラーのつけ方と相モデル練習					
第11回	スキンケア～コントロールカラー・ファンデデモ		スキンケア～コントロールカラー相モデル練習など					
第12回	ファンデーション相モデル練習		ファンデーションのつけ相モデル方練習					
第13回	スキンケア～ファンデ・コンシーラーデモ		スキンケア～ファンデ相モデル練習・カバーの仕方					
第14回	コンシーラー相モデル練習		それぞれに合ったコンシーラー相モデル練習					
第15回	スキンケア～コンシーラー・フェイスパウダーデモ		スキンケア～コンシーラー相モデル練習・パウダーの仕方					
第16回	フェイスパウダー相モデル練習		フェイスパウダーのつけ方相モデル練習					
第17回	スキンケア～フェイスパウダー		スキンケア～フェイスパウダー相モデル練習					
第18回	ハイライト・ローライト・ニュアンスデモ&練習		ハイライト・ローライト・ニュアンスの相モデル練習					
第19回	スキンケア～ベースメイク完成(3級模擬試験)		スキンケア～ベースメイクの模擬試験					
第20回	アイブロウデモ・アイブロウ相モデル練習		それぞれに合ったアイブロウの描き方相モデル練習					
第21回	スキンケア～アイブロウ・アイメイクデモ		スキンケア～アイブロウ相モデル練習・アイメイクの仕方					
第22回	アイメイク相モデル練習		それぞれに合ったアイメイクの相モデル練習					
第23回	スキンケア～アイメイク・リップデモ		スキンケア～アイメイク相モデル練習・リップのいれ方					
第24回	リップ相モデル練習		それぞれに合ったリップのつけ方練習					
第25回	スキンケア～リップ・チークデモ		スキンケア～リップ相モデル練習・チークのいれ方					
第26回	チーク相モデル練習		チークを入れてフルメイク完成相モデル練習					
第27回	スキンケア～フルメイク(タイムアップ)		2・3級検定対策					
第28回	スキンケア～フルメイク(タイムアップ)		2・3級検定対策					
第29回	スキンケア～フルメイク(タイムアップ)		2・3級検定対策					
第30回	スキンケア～フルメイク(タイムアップ)		2・3級検定対策					
成績評価方法								
単位認定 学内試験60点以上、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎							S(4):90点以上
小テスト								A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度			○					C(1):60点以上
発表・作品					◎		100	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	福本 真弓			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/fukumoto/			

科目名	美容実習(ネイル)		単位数	2	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ネイル基礎知識・ネイルケア・カラーリング・検定アート・検定3級対策							
授業の一般目標	7月 JNECネイリスト技能検定試験3級合格							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	JNAテクニカルシステム(ベーシック)							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回-2回	初回授業説明理論		教材配布・検品・テーブルセッティング ネイル概論					
第3回-4回	ネイルケア基礎		消毒・ファイル・キューティクルクリーン ネイル概論					
第5回-6回	ネイルケア基礎		消毒・ファイル・キューティクルクリーン ネイル概論					
第7回-8回	ネイルケア基礎		消毒・ファイル・キューティクルクリーン ネイル概論					
第9回-10回	ネイルケア基礎		ネイルケア・カラーリング・カラーオフ ネイル概論					
第1回1-12回	ネイルケア基礎		ネイルケア・カラーリング・カラーオフ 小テスト					
第13回-14回	ネイルケア基礎		ネイルアート					
第15回-16回	ネイルケア基礎		ネイルケア・カラーリング・カラーオフ ネイル概論					
第17回-18回	ネイルケア基礎		ネイルアート					
第19回-20回	検定対策		3級対策					
第2回1-22回	検定対策		3級対策					
第23回-24回	検定対策		3級対策					
第25回-26回	検定対策		3級対策・模擬検定					
第27回-28回	検定対策		ネイルアート					
第29回-30回	検定対策		ネイルアート					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○			◎		100	S(4):90点以上
小テスト								A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度								C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	美容実習(ヘアアレンジ)			単位数	1	科目コード		
授業形態	実習			対象学生	1年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	前期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	お客様のシーンに合わせたスタイルを知り、作成できる力を身に付ける							
授業の一般目標	現場で要望の多いスタイルを短時間で手早く仕上げられる様になる							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	『新井唯夫のセットアップレッスン』『ベーシックアップ新美容出版』『新美容出版(株)』、『ショートでアップ』女性モード社							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備 考	
第1回	ブラシ・コームの使い方			ブラシ・コームの持ち方、使用目的				
第2回	ピン止め/逆毛/コーミング/1束止め(ポニーテール)ができるようになる			ピンの種類・役割/ゆるんでこないピンの打ち方 ゴムの止め方				
第3回	ホットカーラー・アイロンを使ってヘアを巻く事ができる			ホットカーラーの大きさ巻く方向によっての カールの違いをみる				
第4回	1束止め・カールをいかしたダウン・アップスタイルを作成することができる			カールを使ってダウン・アップスタイルを作成する				
第5回	1束止め・カールをいかした			面をこわさない作り方・方法				
第6回	編みこみアレンジができる			表編み、裏編みの違いをみる				
第7回	編みこみアレンジができる			編み込みスタイル作成				
第8回	夜会巻きアレンジができる			ピンの止め方・逆毛の立て方・ブラシの入れ方 コームの入れ方				
第9回	夜会巻きアレンジができる			夜会巻きスタイル作成				
第10回	1束、編み込み、夜会巻きを入れたスタイル作成			スタイルのバランス、束間、用途に合わせたスタイリング剤の選定				
第11回	1束、編み込み、夜会巻きを入れたスタイル作成			スタイルのバランス、束間、用途に合わせたスタイリング剤の選定				
第12回	オリジナルデザインスタイル作成			スタイル画からイメージした作品が思った通り形になるか				
第13回	オリジナルデザインスタイル作成			スタイル画からイメージした作品が思った通り形になるか				
第14回	スタイル写真を見てアップスタイルを作成することができる			課題作成(カールアップスタイル、抱き合わせ、編み込み)				
第15回	スタイル写真を見てアップスタイルを作成することができる			課題作成(カールアップスタイル、抱き合わせ、編み込み)				
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎							S(4):90点以上
小テスト								A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度			○					C(1):60点以上
発表・作品					◎		100	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	美容保健Ⅲ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	1年半、計35回(70時間)のうち前半(人体の構造および機能)である。国家試験は最重要であるが、美容師になるための必要知識、技能、態度の取得、論理的思考、合理的な処理能力社会に対する適応力など職業人教育の観点から授業を進める。また、理解しやすいよう、適宜視聴覚教材を利用する。							
授業の一般目標	1. 美容師国家試験合格レベルの知識習得 2. 頭、顔を中心とする人間の美に関わる保健衛生分野の職業である美容師に必要な人体の構造(解剖学)と機能(生理学)の基本的な知識の習得 3. 人間性の醸成							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	保健 日本理容美容教育センター							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	皮膚の循環系と神経系	皮膚の血管、皮膚のリンパ管						
第2回	皮膚と皮膚付属器官の生理機能	皮膚の神経、総合学習、小テスト						
第3回		対外保護作用・体温調節作用						
第4回		知覚作用・皮膚反射・分泌排泄作用・呼吸作用						
第5回		吸収作用・免疫・毛・爪のはたらき						
第6回	皮膚と皮膚付属器官の保健	総合学習、小テスト						
第7回		皮膚と全身状態・皮膚と精神・栄養・嗜好品						
第8回		皮膚と体内病変・皮膚の水分と脂の状態						
第9回		皮膚・付属器官とホルモン						
第10回	皮膚と皮膚付属器官の疾患	皮膚・毛・爪の保護と手入れ、総合学習、小テスト						
第11回		皮膚の異常とその種類、皮膚疾患の原因と治療法						
第12回		皮膚炎と湿疹・蕁麻疹・薬疹その他の皮膚疾患						
第13回		尋常性ざ瘡・化膿菌・真菌。ウイルス・衛生害虫						
第14回		毛と爪の疾患、総合学習、小テスト						
第15回	総合学習	第3章皮膚の循環器系と神経系、第4章皮膚と皮膚付属器官の生理機能、皮膚と皮膚付属器官の保健、皮膚と皮膚付属器官の疾患						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度								C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	化粧品化学Ⅱ			単位数	1	科目コード		
授業形態	講義			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	前期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	実学としての化粧品化学を理解できるように授業を進める。また、「関係法規・制度」、「衛生管理」、「理容・美容保健」など、他教科との関連性についても適宜述べる。							
授業の一般目標	1. 美容師国家試験合格レベルの知識習得 2. 人の生体の成分に化学変化を与える化粧品の基本知識の習得し、その危険性について認識する。 3. 化粧品化学の知識・理解を深め美容の専門家への道を拓く。 4. 人間性の醸成							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	化粧品化学 日本理容美容センター							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容				備 考
第1回	化学分野の復習			化学（物質の構造・溶液とコロイド・酸と塩基と塩・酸化還元反応・有機化合物） について確認				
第2回	化粧品概論			化粧品概論（社会的意義と品質特性・化粧品の規定）について学ぶ				
第3回	化粧品用原料			水性原料（水・エタノール） 油性原料（油脂・ロウ類・炭化水素・その他の油性原料）について学ぶ。				
界面活性剤の基本的性質・種類・化粧品への応用と 高分子化合物を学ぶ								
色材と化粧品・無機顔料・タール色素・光輝生顔料・天然色素について学ぶ								
第5回	基礎化粧品			香料と化粧品・香料の種類・調合香料について学ぶ。				
皮膚清浄用化粧品（皮膚の汚れと洗浄作用・石鹼の種類とその性質・その他の洗浄剤） について学ぶ。								
第7回								
第8回	メイクアップ用化粧品			化粧水、クリーム・乳液、その他の基礎化粧品について学ぶ				
第9回				メイクアップ化粧品の種類と剤形・ベースメイクアップ化粧品・ポイントメイクアップ化粧品について学ぶ				
第10回	頭皮・毛髪用化粧品			皮膚や毛髪の性状、シャンプー剤（シャンプー剤・ヘアリンス剤・ヘアトリートメント剤）について学ぶ				
第11回				スタイリング剤の機能・油性スタイリング剤・液状スタイリング剤・高分子物質を基材とするスタイリング剤について学ぶ				
第12回				パーマの原理・パーマ剤第一剤・二剤と使用上の注意について学ぶ。				
第13回				ヘアカラーの種類と染毛メカニズムと染毛剤の種類について学ぶ				
第14回	その他の化粧品			芳香製品（香水・オーデコロン）、特殊化粧品（サンケア製品・美白用化粧品・制汗防臭剤・ニキビ用化粧品について学ぶ				
第15回	化粧品の取扱い			化粧品の安定性と取扱い、化粧品によるトラブルについて学ぶ				
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				50	A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度								C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	美容文化論Ⅱ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	西洋のさまざまな髪型、化粧、服装の変遷流行を学び、来るべき時代の要請に応じられるデザイナーになる。 社会貢献ができる美容業界を目指す。 儀式的席に着用する衣装より日本の伝統に触れ合い、欧米文化のしきたりとわが国のしきたりとの関係を理解する。 礼装の種類と特徴を知りTP0を明確にする							
授業の一般目標	1. 美容師国家試験（文化論）合格レベルの知識習得 2. 風俗と時代背景とのつながりを読み解く 3. 髪型、化粧、服装などとのトータルバランスを学ぶ 4. 礼装（和装・洋装）の種類を学ぶ							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	美容文化論 日本理容美容センター							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	1. 授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	1. 美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	1. 日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容			備 考		
第1回	ファッション文化史 西洋編		古代エジプト、古代ギリシャ・ローマ、古代ゲルマン 中世ヨーロッパの髪型・化粧・服装					
第2回			総合学習、小テスト					
第3回			近世Ⅰ(16世紀)、近世Ⅱ(17世紀)、近世Ⅲ(18世紀)の髪型・化粧・服装					
第4回			総合学習、小テスト					
第5回			近代Ⅰ(18世紀末～19世紀初め)、近代Ⅱ(19世紀)の髪型・化粧・服装					
第6回			総合学習、小テスト					
第7回			現代Ⅰ(1910年代～1920年代) 現代Ⅱ(1930年代～1940年代前半)の髪型・化粧・服装					
第8回			現代Ⅲ(1940年代後半～1950年代)、現代Ⅳ(1960年代)の髪型・化粧・服装					
第9回			現代Ⅴ(1970年代)、現代Ⅵ(1980年代)の髪型・化粧・服装					
第10回			現代Ⅶ(1990年代～2010年)の髪型・化粧・服装					
第11回			総合学習					
第12回	ファッション文化 現在		現在の髪型・化粧・服装（課題作成）					
第13回	礼装の種類		和装の礼装					
第14回			洋装の礼装					
第15回			総合学習					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト								A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			30	B(2):70点以上
授業態度			○				20	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	衛生管理Ⅱ			単位数	1	科目コード		
授業形態	講義			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	前期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	美容師になる上で必要な感染症の知識を学習する。							
授業の一般目標	美容師国家試験合格レベルの知識習得。美容師の社会責任、職業倫理への理解。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	衛生管理 日本理容美容教育センター							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備 考	
第1回	感染症を学習する目的			客、従業員を通しての感染症伝播の危険性を知る。				
第2回	感染症の種類			感染症の3つの分類を知り、感染症の種類を覚える。				
第3回	病原微生物			病原微生物の種類と形と大きさと構造を知る。				
第4回	微生物の増殖と環境の影響			細菌の増殖と環境の影響を理解する。				
第5回	感染症の予防			微生物の病原性と汚染、感染及び発病について学ぶ。				
第6回	常在細菌叢			人体の常在細菌叢を知る。				
第7回	免疫と予防接種			先天免疫、後天免疫、予防接種、ワクチンを知る。				
第8回	感染症発生の要因			感染源、感染経路、宿主の感受性。感染症の3大要因。				
第9回	感染症予防の3原則			感染源、感染経路、宿主の感受性に対する対策。				
第10回	感染症の予防 まとめ			汚染、感染、発病を理解させる。免疫と予防接種を学ぶ。				
第11回	感染症の概要			理容、美容と感染症。一類感染症を知る。				
第12回	二類感染症、三類感染症			二類感染症、三類感染症を知る。病原体、感染源、感染経路。				
第13回	四類感染症、五類感染症			四類感染症、五類感染症を知る。病原体、感染源、感染経路。				
第14回	新型インフルエンザ等感染症			新型インフルエンザ、予防接種法で規定されている感染症。				
第15回	感染症の概要 まとめ			感染症の病名、種別、病原体、性格を復習する。				
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				50	A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度								C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	衛生管理Ⅲ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	消毒法を知り、理学的消毒法、化学的消毒法の特徴を学ぶ。消毒薬の種類と濃度計算式を理解する。清潔保持と清掃の意義を知る。							
授業の一般目標	美容師国家試験合格レベルの知識習得。美容師の社会責任、職業倫理への理解。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	衛生管理 日本理容美容教育センター							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	消毒とは	消毒法の歴史						
第2回	病原微生物と非病原微生物	病原微生物の種類と構造・消毒の原理						
第3回	消毒の意義①	汚染・感染・発病と消毒の意義						
第4回	消毒の意義②	消毒・滅菌・殺菌・防腐の定義						
第5回	美容の業務と消毒との関係	消毒に関連のある法の規定						
第6回	消毒を怠った場合の危険と責任	美容所で起こりえる感染例・消毒の重要性						
第7回	消毒法と適用上の注意	消毒法の種類・病原微生物の抵抗力						
第8回	消毒法各論・理学的消毒法	紫外線消毒・煮沸消毒・蒸気消毒						
第9回	化学的消毒法	アルコール類の消毒・次亜塩素酸ナトリウム・界面活性剤・逆性石鹼						
第10回	すぐれた消毒法と実施上の注意	消毒法の条件、注意事項						
第11回	消毒法実習	各種消毒薬・消毒薬と希釈液の濃度						
第12回	消毒薬希釈法	各種消毒薬希釈の手順						
第13回	美容所の消毒の実際	消毒設備・器具の消毒法・消毒の現状						
第14回	美容所の消毒法の実際	洗剤による清浄法・衛生昆虫の駆除						
第15回	衛生管理技術のまとめ	消毒法と特徴・器具、布片の消毒法・希釈法						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				50	A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度								C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	美容技術理論Ⅲ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	美容師としての心構え、美容技術の基礎理論を学ぶ事によって、美容技術の理解を高め、美容実習につなげていく。科学的根拠と系統だった理論を理解することにより、より良い技術と心を、お客様に提供できる美容師をめざす。							
授業の一般目標	・美容師国家試験（美容技術理論論）合格レベルの知識習得 ・現在の美容技術は薬剤の発展と共に複雑化し、正確に行わないと危険を伴うこともある。ここでは美容技術の基礎となる理論を学び、理論に基づいた正確な技術の修得をめざす。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	美容技術理論 1 美容実習1 日本理容美容教育センター							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	エステティック	概論、歴史・目的・注意点、エステティシャンの心得 皮膚の生理と構造						
第2回	カウンセリング	エステティックにおけるカウンセリング スキンチェック・肌質の種類と特徴						
第3回	マッサージ理論	基本手技（7種類）の目的、フェイシャルケアの効果・方法 フェイシャル及びデコルテマッサージ・バック						
第4回		ボディケアの種類と特徴 ボディマッサージ						
第5回	ネイル技術の概論、種類、爪の構造と機能	概論、さまざまなテクニック（3種類） 爪の構造と名称、爪のカット形状						
第6回	ネイル技術と公衆衛生	消毒方法と手順 カウンセリング（ネイルスタイルと爪の健康状態）						
第7回	ネイルケア	道具類の名称と使用目的 マニキュアとペディキュア技術の手順と内容						
第8回	アーティフェイシャルネイル	道具類の名称と使用目的 フレイパーションとグルー&フィラー技術の手順と内容						
第9回	手と足のマッサージ	マッサージの手順とポイント、目的						
第10回		総合学習						
第11回	メイクアップ概論	概論、顔の形態学的な観察 （プロポーション・骨格と筋肉・顔の立体感）						
第12回	メイクアップと色彩	色の特性 表皮・真皮・皮下組織のはたらき						
第13回	メイクアップの道具	道具類の名称と使用目的、手入れ法						
第14回	スキんケア	スキんケア手順と目的						
第15回		総合学習						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度								C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	福井 純子			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/fukui/			

科目名	美容技術理論Ⅳ			単位数	1	科目コード		
授業形態	講義			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	後期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	美容師としての心構え、美容技術の基礎理論を学ぶ事によって、美容技術の理解を高め、美容実習につなげていく。科学的根拠と系統だった理論を理解することにより、より良い技術と心を、お客様に提供できる美容師をめざす。							
授業の一般目標	・美容師国家試験（美容技術理論論）合格レベルの知識習得 ・現在の美容技術は薬剤の発展と共に複雑化し、正確に行わないと危険を伴うこともある。ここでは美容技術の基礎となる理論を学び、理論に基づいた正確な技術の修得をめざす。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	美容技術理論 2 美容実習2 日本理容美容教育センター							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容				備 考
第1回	ベースメイクアップ			ファンデーションの目的・選び方・種類と特徴 塗り方と順序、カバーテクニク				
第2回	アイメイクアップ、アイブロウメイクアップ			各種テクニクの技術と効果				
第3回	リップメイクアップ、ブラッシュオンメイクアップ			各種テクニクの技術と効果				
第4回	まつ毛エクステンション			まつ毛エクステンションにおける衛生及び保健 道具類の名称と使用目的、カウンセリングとアフターケア				
第5回				技術一例と注意事項				
第6回	日本髪			日本髪の各部の名称・種類と特徴・結い方での印象と顔とのバランス(調和)				
第7回	日本髪の装飾品と結髪道具			装飾品と髪結道具の名称と特徴・使用目的				
第8回	結髪技術とかつら			結髪技術の手順、かつら装着とはずし方・飾りの付け方、かつらの手入れ				
第9回	着付け(着物)			いろいろな着物の種類と特徴				
第10回	帯と着付け小物			帯の種類と特徴、着付け小物の名称と使用目的				
第11回	着物の各部名称とたたみ方			着物の名称、たたみ方手順と3種の違い				
第12回	着付け技術			留袖・振袖の着付け技術				
第13回				男子礼装羽織、袴・女子袴の着付け技術				
第14回	和装花嫁			花嫁衣裳の種類、婚礼衣装の着付け技術				
第15回	洋装花嫁			ウェディングドレスとベールの名称と特徴				
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート	◎	○	◎				30	B(2):70点以上
授業態度								C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	美容技術理論Ⅴ			単位数	1	科目コード		
授業形態	講義			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	後期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	国家試験課題を学習し理解することによって、実技課題の習得を容易にする。美容技術理論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳで学んだ事を土台として、さらにトータルのに美容について修得していく。							
授業の一般目標	・美容師国家試験（美容技術理論論）合格レベルの知識習得 ・現在の美容技術は薬剤の発展と共に複雑化し、正確に行わないと危険を伴うこともある。ここでは美容技術の基礎となる理論を学び、理論に基づいた正確な技術の修得をめざす。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	美容技術理論 1、2 美容実習1、2 日本理容美容教育センター							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	総合学習	美容技術理論を学ぶにあつたでの総合知識						
第2回		美容用具の総合知識						
第3回		シャンプーの総合知識						
第4回		ヘアデザインの総合知識						
第5回		ヘアカッティングの総合知識						
第6回		ヘアカッティングの総合知識						
第7回		パーマメントウェーピングの総合知識						
第8回		ヘアセッティングの総合知識						
第9回		ヘアカラーリングの総合知識						
第10回		エステティックの総合知識						
第11回		ネイル技術の総合知識						
第12回		メイクアップの総合知識						
第13回		日本髪 の総合知識						
第14回		着付けの理論と技術の総合学習						
第15回		苦手科目の強化						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度								C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	美容技術特論Ⅰ			単位数	4	科目コード		
授業形態	講義			対象学生	2年生	開設期	通期	
区分	必修			開設時期	前後期	教員実務経験対象	有	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	期末試験・国家試験に向けて、カット技術の強化							
授業の一般目標	国家試験の準備、流れを体得する							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	衛生と技術の解説 理容師美容師試験研修センター 美容実習Ⅰ 美容技術理論Ⅰ 日本理容美容教育センター							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備 考	
第1回	第一課題 カット 概要を知る			シザースワーク・教材DVD鑑賞			テキスト・メモ	
第2回～3回	第一課題 カット ブロッキングを知る、全頭の手順を知る			ブロッキング手技デモン見学・実践、全頭カット手順デモン見学・実践14cmでカット			坊主ウィッグ	
第4回～9回	第一課題 カット ブロック各の手順を知る、			角度・長さ計測・パネル引き出し解説デモ、生え際2cmガイドカット→手技デモ→実践第3、2、1セクションカット、EtoEブロック後頭部→前頭部カット			①14cmでカット	
第10回～11回	第一課題 カット 全頭を規定の長さで切る 第一課題 カット 改善点を踏まえて仕上げる			仕上がりで理解度の確認・手技の確認 個別指導で手技の確認・失敗例の紹介			①10cm規定でカット	
第12～19回	第一課題 カット 手順・角度・長さの確認			全頭仕上げる→個別確認→仕上げチェック方法を知る、長さの違いでの仕上がり確認 疑問点、勘違い箇所の改善・修正、規定10cmで一発切り→全頭の仕上がり確認				
第20回～21回	第一課題 カット エアカット 第一課題 カット 時間の意識・手を早める			手順・角度・シザースワーク・パネルの確認 30分全頭仕上げ→1パネル2シェーブの癖付け			⑤14cm	
第22回～23回	第一課題 カット エアカット 第一課題 カット 時間の意識・手を早める			手順・角度・シザースワーク・パネルの確認 30分全頭仕上げ→1パネル2シェーブの癖付け			⑤12cm	
第24回～25回	第一課題 カット エアカット 第一課題 カット 時間の意識・手を早める			手順・角度・シザースワーク・パネルの確認 30分全頭カット→仕上がりチェック・個別アドバイス			⑤10cm	
第26回～27回	第一課題 カット 手順・角度・長さの確認 第一課題 カット エアカット			注意点を踏まえて確認カット 手順・角度・シザースワーク・パネルの確認			⑤8cm	
第28回～29回	第一課題 カット 時間の意識・手を早める 第一課題 カット エアカット			30分全頭カット→仕上がりチェック 手順・角度・シザースワーク・パネルの確認			⑥14cm	
第30回～31回	第一課題 カット 時間の意識・手を早める 「衛生面」確認			30分全頭カット→仕上がりチェック 準備物・配置・注意点の確認			⑥12cm	
第32回～33回	第一課題 カット エアカット 第一課題 カット 時間の意識・手を早める			30分全頭カット→仕上がりチェック			11月1日第2課題発表 ⑥10cm	
第34回～35回	第一課題 カット 全頭再デモ 第一課題 カット チェックテスト			質疑応答→実践 【30分確認テスト】時間内に仕上げる手の使い方を得る			⑥8cm 採点・評価 ⑦	
第36回	国試願書記入・受験案内の確認			準備物・配置・注意点の確認			受験案内	
第37～40回	第一課題 カット 準備・衛生面確認 第一課題 カット 全頭再デモ			顔面ふき取り作業の確認、25分全頭カット→仕上がりチェック 規定20分カットのデモ→規定のスピードを知る				
第41～42回	第一課題 カット 準備・衛生面確認			規定20分カットを試してみる、顔面ふき取り作業・床シート上の髪の毛処理方法			⑧10cm	
第43回～44回	第一課題 カット チェックテスト 第一課題～第二課題 衛生面チェック			【25分確認テスト】時間内に仕上げる手の使い方を得る 衛生面→第一課題→第二課題通して確認			⑨ ⑩国試準備・流れ確認	
第45回～46回	第一課題 カット 全頭再デモ 第一課題 カット 時間の意識・手を早める			15分カットのスピードを知る→手を早く動かす意識 20分全頭カット→仕上がりチェック			⑪	
第47回	第一課題～第二課題 衛生面チェック			国試本番の流れを通して、全体を知る			⑫国試机上配置確認	
第48回～49回	第一課題 カット チェックテスト 第一課題 カット 時間の意識・手を早める			【20分確認テスト】国試合格レベルが見極める 手技・勘違いがないか確認・改善			採点・評価⑬ ⑭	
第50～54回	第一課題～第二課題 衛生面チェック			失敗しやすい箇所の確認、衛生面の注意事項確認、国試本番の流れを通して全体を知る 20分全頭カット→仕上がりチェック(国試本番の流れを通して全体を知る)			採点・評価⑮	
第55～56回	卒業認定試験(後期試験)			国試本番の緊張感を味わう・慣れる			職員・下級生見学⑰	
第57～60回	第一課題(20分)～第二課題(20分or25分) 衛生面チェック			国試本番の流れを通して、本番を想定する			採点・評価⑱	
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					100	S(4):90点以上
小テスト								A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度								C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	

出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	美容技術特論Ⅱ		単位数	8	科目コード	
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	－
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	国家試験で定められた課題を作成し、合格レベルまで反復演習を行い資格取得をする					
授業の一般目標	国家試験実技課題の知識と技術を身に付け試験に合格できる能力を身につける 第一課題→カット 第二課題→ウエーブorワインディング					
受講条件	出席率80%以上が前提となる					
事前学習について (テキスト・参考書等)	美容技術理論 1 美容実習1 第一課題・第二課題モデルウィッグ 日本理容美容教育センター 衛生と技術の解説DVD					
授業の到達目標						
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。					
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。					
□ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。					
□ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。					
□ 技能・表現の観点						
授業計画(全体)						
授業計画(授業単位)						
回	主 題		授 業 内 容			備 考
第1回～3回	第一課題 カット	概要を知る ブロッキングを知る	シザースワーク・教材DVD鑑賞、ブロッキング手技デモ見学・実践 全頭カット手順デモ見学・実践14cmでカット			テキスト・メモ
第4回～6回	第二課題 オールウエーブ 第二課題 ワインディング	復習 復習	ウエーブ構成・幅・作成手順の確認、1本の角度・スライス・シェーブ確認 ブロッキング～全頭巻き→規定タイムで仕上がり確認			
第7回～11回	第一課題 カット	ブロック各の手順を知る	角度・長さ計測・パネル引き出し解説デモ、生え際2cmガイドカット→手技デモ→実践 第3、2、1セクションカット、EtoEブロック後頭部→前頭部カット			①12cmでカット
第12回～14回	第一課題 カット 第一課題 カット	全頭を切ってみる 全頭を規定の長さで切る	全頭デモ(イメージを持つ)→全頭カット実践、仕上がりで理解度の確認・手技の確認 個別指導で手技の確認・失敗例の紹介			①8cmでカット
第15回～17回	第二課題 オールウエーブ 第二課題 ワインディング	復習 復習	ウエーブ構成・幅・作成手順の確認→改善箇所の演習 各ブロックを規定タイムで区切りスピード進捗確認			モデルウィッグ
第18回～22回	第一課題 カット	手順・角度・長さの確認	全頭仕上げる→個別確認→仕上げチェック方法を知る 疑問点、勘違い箇所の改善・修正			ウィッグ②14cm ③10cm・8cm
第23回～25回	第二課題 オールウエーブ 第二課題 ワインディング	復習 復習	規定時間内で手技確認・仕上がり共有 規定20分の仕上がり確認→細かい注意点を自覚・改善			
第26回～28回	第一課題 カット	手順・角度・長さの確認	規定10cmで一発切り→全頭の仕上がり確認 注意点を踏まえて確認カット			④10cm ④8cm
第29回～39回	第一課題 カット 第一課題 カット	エアカット 時間の意識・手を早める	手順・角度・シザースワーク・パネルの確認 30分全頭仕上げ→1パネル2シェーブの癖付け			⑤14cm ⑥12cm
第40回～42回	第二課題 オールウエーブ 第二課題 ワインディング	復習 復習	準備物・配置・注意点の確認 規定時間内で手技確認・仕上がり共有			テキスト
第43回～45回	第一課題 カット 第一課題 カット	エアカット 時間の意識・手を早める	30分全頭カット→仕上がりチェック ⑥10cm 質疑応答→実践 ⑥8cm			11月1日第2課題発表
第46回～48回	第二課題 オールウエーブ	復習	規定時間内で手技確認・仕上がり共有 各ブロック・ピンカール再説明→確認・改善			
第49回～50回	第一課題 カット	チェックテスト 国試験書記入・受験案内の確認	【30分確認テスト】時間内に仕上げる手の使い方を得る 準備物・配置・注意点の確認			採点・評価⑦ 受験案内
第51回～53回	第一課題 カット	準備・衛生面確認	顔面ふき取り作業の確認 25分全頭カット→仕上がりチェック			⑧14cm ⑧12cm
第54回～56回	第一課題 カット 第一課題 カット	全頭再デモ 準備・衛生面確認	規定20分カットのデモ→規定のスピードを知る 顔面ふき取り作業・床シート上の髪の毛処理方法			⑧10cm
第57回～60回	第二課題 オールウエーブ	復習	各ブロックデモ・手技確認・チェックポイント確認 顔面ふき取り・衛生面チェック			
第61回～62回	第一課題 カット	チェックテスト	【25分確認テスト】時間内に仕上げる手の使い方を得る 衛生面→第一課題→第二課題通して確認			国試準備・流れ確認
第63回～64回	第一課題 カット 第一課題 カット	全頭再デモ 時間の意識・手を早める	15分カットのスピードを知る→手を早く動かす意識 20分全頭カット→仕上がりチェック			⑩
第65回～66回	第二課題 オールウエーブ 第一課題～第二課題	復習 衛生面チェック	規定時間内で手技確認・仕上がり共有 国試本番の流れを通して、全体を知る			⑪ 国試机上配置確認
第67回～70回	第二課題 オールウエーブ	復習	顔面ふき取り・衛生面チェック、苦手箇所を知り改善 ウエーブとピンカールつなぎ・ウエーブ・リッジの確認			モデルウィッグ
第71回～72回	第一課題 カット 第一課題 カット	チェックテスト 時間の意識・手を早める	【20分確認テスト】国試合格レベルか見極める 手技・勘違いがないか確認・改善			採点・評価⑬⑭
第73回～75回	第一課題～第二課題	衛生面チェック	失敗しやすい箇所の確認、衛生面の注意事項確認 国試本番の流れを通して、全体を知る			採点・評価⑮⑯⑰
第76回～79回	第二課題 オールウエーブ	復習	規定時間内で手技確認・仕上がり共有 苦手箇所を知り改善			採点・評価
第80回～82回	第一課題 カット 第二課題 オールウエーブ 第一課題～第二課題	時間の意識・手を早める 復習 衛生面チェック	20分全頭カット→仕上がりチェック ウエーブ・リッジの確認→幅・半円・ピンカールつなぎ 国試本番の流れを通して、全体を知る			採点・評価⑱
第83回～85回	第一課題 カット 第一課題 カット	苦手箇所の克服 時間の意識・手を早める	手技の確認・癖の発見 手技・勘違いがないか確認			⑲
第86回～89回	第二課題 オールウエーブ 第一課題～第二課題	復習 衛生面チェック	苦手箇所を知り改善、国試本番の流れを通して、全体を知る 各ブロック見直し バランス・繋がりの再確認(細部までの共有・確認)			採点・評価⑳
第90回～92回	第二課題 オールウエーブ	復習	各ブロック見直し 手技・仕上りの再確認 各ブロック見直し バランス・繋がりの再確認			
第93回～95回	第一課題 カット 第一課題～第二課題	時間の意識・手を早める 衛生面チェック	規定時間内で手技確認・仕上がり共有 国試本番の流れを通して、本番を想定する			採点・評価㉒㉓㉔

第96回～100回	第一課題 カット 各ブロック見直し・手技・仕上りの再確認 第二課題 オールウエーブ 復習 第一課題～第二課題 衛生面チェック	問題点を発見し改善する 規定時間内で手技確認・仕上がり共有 国試本番の流れを通して、本番を想定する	採点・評価②⑥⑦					
第101回～103回	第二課題 オールウエーブ 復習 第一課題～第二課題 衛生面チェック	規定時間内で手技確認・仕上がり共有 国試本番の流れを通して、本番を想定する	採点・評価⑧					
第104回～106回	第一課題 カット 時間の意識・手を早める 第一課題～第二課題 衛生面チェック	問題点を発見し改善する、規定時間内で手技確認・仕上がり共有 国試本番の流れを通して、本番を想定する	採点・評価⑨⑩⑪⑫					
第107回	第一課題 カット 各ブロック見直し・手技・仕上りの再確認	問題点を発見し改善する	採点・評価⑬					
第108回～110回	第一課題 カット 時間の意識・手を早める 第二課題 オールウエーブ 復習	規定時間内で手技確認・仕上がり共有	採点・評価⑭					
第111回～113回	第一課題～第二課題 衛生面チェック 第二課題 オールウエーブ 復習	国試本番の流れを通して、本番を想定する 規定時間内で手技確認・仕上がり共有	採点・評価⑮					
第114回～120回	第一課題(20分)～第二課題(20分or25分) 衛生面チェック	国試本番の流れを通して、本番を想定する	採点・評価⑯					
成績評価方法								
単位認定60点以上 模擬国家試験(国家試験規定に準じ評価を行う)								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					100	S(4):90点以上
小テスト								A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度								C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名		美容実習(ウェーブⅡ)			単位数	2	科目コード		
授業形態		実習			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分		必修			開設時期	前期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)		ヘアセッティング (国家試験第2課題)							
授業の一般目標		1. 美容師国家試験合格レベルへの引き上げ 2. 正確な技術の習得 3. 人間性の醸成 4. セッティングやデザインの復元に富んだ長持ちするコームアウトが容易にできるようになる							
受講条件		出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)		衛生と技術の解説 理容師美容師試験研修センター 美容実習1 美容技術理論1 日本理容美容教育センター							
授業の到達目標									
□ 知識・理解の観点		1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点		授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点		美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点		日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点									
授業計画(全体)									
授業計画(授業単位)									
回	主 題			授 業 内 容				備 考	
1・2回	実力確認テスト			一段目はスカルプチュアカール、2段目～6段目はオールウェーブ、7段目はクロッキノールカールの全頭で完成する (1年目の課題スタイル)				タイム計測25分	
3・4回	難点部分の技術強化			実力テストで自分の難点部分を知り、技術と理解を改善する					
5・6回	実力再確認テスト			上記スタイルで、国家試験基準の十分な到達レベルに仕上げる					
7・8回	4段目にリフトカールの作製			リフトカールの定義を知り、技術指導を受け作れるようになる				オールウェーブの中央1/3は作らない状態で準備する	
9・10回	5段目に逆リフトカールの作製			逆リフトカールの定義を知り、技術指導を受ける作れるようになる					
11・12回	リフトカール・逆リフト 難点部分の技術強化と確認テスト			リフトカールと逆リフトを国家試験基準の十分な到達レベルに仕上げる				時計の方向巻きと逆向き方向巻き	
13・14回	6段目にメイボールカールの作製 7段目にクロッキノールカールの作成			メイボールカールとクロッキノールカールの定義を知り、技術指導を受け作れるようになる				オールウェーブの中央1/3は作らない状態で準備する	
15・16回	メイボールカール・クロッキノールカール 点部分の強化と確認テスト			各カールを国家試験基準の十分な到達レベルに仕上げる					
17・18回	全カールの難点部分の技術強化			確認テストでの自分の難点部分を知り、技術と理解を改善する					
19・20回	期末テスト試験課題の作製			期末テストスタイルのデモンストレーションより スタイル構成を知る					
21・22回				技術の条件を理解して課題スタイルを完成させる				タイム計測30分	
23・24回	到達度テスト			合格基準に十分に到達した仕上げを2分前には、仕上げる				タイム計測27分	
25・26回	難点部分の技術強化							タイム計測26分	
27・28回	到達度テスト			23分で仕上げ2分で仕上がり確認をする				タイム計測25分	
29・30回	難点部分の技術強化							タイム計測25分	
成績評価方法									
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上									
		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験		◎	○			◎		100	S(4):90点以上
小テスト									A(3):80点以上
宿題授業外レポート									B(2):70点以上
授業態度									C(1):60点以上
発表・作品								評価なし	D:59点未満 未修得
演習								評価なし	
出席				○				欠格条件	
担当教員					実務経験紹介				

科目名	美容実習(ワインディングⅡ)			単位数	2	科目コード		
授業形態	実習			対象学生	2年生	開設期	通期	
区分	必修			開設時期	前後期	教員実務経験対象	有	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ワインディング (国家課題Ⅰ)							
授業の一般目標	1. 美容師国家試験合格レベル・コンクールレベルの知識習得 2. ロッド使用しパーマの形成を理解する 3. 人間性の醸成							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	衛生と技術の解説 理容師美容師試験研修センター 美容実習1 美容技術理論1 日本理容美容教育センター							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備考	
第1回	実力確認テスト (何分で仕上げられるか)			自己ベストタイムを確認する			タイム計測	
第2回	実力確認テスト (ブロッキングとロットの配置)			正確なブロッキングが出来ているのか確認してもらう。ロッドの配置 (パネルの方向性、ステム角度、号数) は正確かを確認してもらう			タイム計測無し	
第3回	難点部分の技術強化			姿勢・立ち位置、道具類の使い方を再確認し、意識しながら作業をする				
第4回				スライス線を、美しく・正確に取れているのかを再確認し、作業する			タイム計測無し	
第5回	実力確認テスト (20分で正確に)			難点部分を改善し、目標タイムに入る				
第6回				難点部分を改善しつつ、自己タイムを縮める			タイム計測	
第7回				難点部分を改善し、目標タイム (20分) に入る				
第8回	美しい、コンクールを意識した作品完成			難点部分を改善しつつ、自己タイムを縮める			タイム計測	
第9回				毛幅、面 (つや)、ゴムのねじれ、バランス、つながり、おくれ毛を意識する			タイム計測	
第10回				目標タイムを設定し美しく、正確に仕上げる				
第11回				目標タイムを設定し美しく、正確に仕上げる				
第12回	実力確認テスト (20分で正確に美しく)			正確に美しく仕上げ、手直しタイム2分込みで、目標タイムに入る			タイム計測20分以内	
第13回	技術の定着			改善点を向上する技術を定着、タイム計測時も安定した技術を発揮する				
第14回								
第15回	実力確認テスト (20分で正確に美しく)			正確に美しく仕上げ、手直しタイム2分込みで、目標タイムに入る				
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○			◎		100	S(4):90点以上
小テスト								A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度								C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	美容実習(カット応用)			単位数	1	科目コード		
授業形態	実習			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	前期	教員実務経験対象	有	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	スタイリストとしてサロンワークに直結した内容を学び、美容師としての奥深さを知る							
授業の一般目標	wigを④台使用し、サロンカット～デザインカットまでを理解する→第14回、第15回には作品提出(サロン様・教員で審査)を行う							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト資料							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備 考	
第1回	wig①ロングスタイル			カット展開図からパネルの引き出し・角度・スライス			ウィッグ①・テキスト・定規	
第2回				カット展開図からパネルの引き出し・角度・スライス			ウィッグ①・テキスト	
第3回				毛量調節・スタイル理解・仕上げブロー・スタイリング			ウィッグ①・テキスト	
第4回				毛量調節・スタイル理解・仕上げブロー・スタイリング			ウィッグ①・テキスト	
第5回	wig②ミディアムスタイル			カット展開図からパネルの引き出し・角度・スライス			ウィッグ②・テキスト・定規	
第6回				カット展開図からパネルの引き出し・角度・スライス			ウィッグ②・テキスト	
第7回				毛量調節・スタイル理解・仕上げブロー・スタイリング			ウィッグ②・テキスト	
第8回				毛量調節・スタイル理解・仕上げブロー・スタイリング			ウィッグ②・テキスト	
第9回	wig③ショートスタイル			カット展開図からパネルの引き出し・角度・スライス			ウィッグ③・テキスト・定規	
第10回				カット展開図からパネルの引き出し・角度・スライス			ウィッグ③・テキスト	
第11回				毛量調節・スタイル理解・仕上げブロー・スタイリング			ウィッグ③・テキスト	
第12回				毛量調節・スタイル理解・仕上げブロー・スタイリング			ウィッグ③・テキスト	
第13回	wig④作品作成			カット展開図からパネルの引き出し・角度・スライス			ウィッグ③・テキスト	
第14回				カット展開図からパネルの引き出し・角度・スライス			ウィッグ④・テキスト	
第15回				履修内容を活かし自由に作品作成			ウィッグ④・テキスト	
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎							S(4):90点以上
小テスト								A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度			○					C(1):60点以上
発表・作品					◎		100	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	美容実習(パーマ応用)					単位数	1	科目コード	
授業形態	実習					対象学生	2年生	開設期	半期
区分	必修					開設時期	前期	教員実務経験対象	有
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	スタイリストとしてサロンワークに直結した内容を学び、美容師としての奥深さを知る								
授業の一般目標	デザインパーマを理解する→カットスタイルに合わせたパーマ技術を施術できる								
受講条件	出席率80%以上が前提となる								
事前学習について (テキスト・参考書等)	美容実習Ⅰ								
授業の到達目標									
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。								
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。								
□ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。								
□ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。								
□ 技能・表現の観点									
授業計画(全体)									
授業計画(授業単位)									
回	主 題					授 業 内 容			備 考
第1回	ミディアムパーマスタイル					パーマのバリエーション～薬剤知識・カット・スタイルに合わせた巻き方			ウイッグ①・テキスト
第2回	ミディアムパーマスタイル					パーマのバリエーション～薬剤知識・カット・スタイルに合わせた巻き方			
第3回	ミディアムパーマスタイル					パーマのバリエーション～薬剤知識・カット・スタイルに合わせた巻き方			
第4回	ミディアムパーマスタイル					パーマのバリエーション～薬剤知識・カット・スタイルに合わせた巻き方			
第5回	ミディアムパーマスタイル					パーマをあてる・ロッド選定からパネルの引き出し・角度・スライス巻き方によつての仕上がり理解			
第6回	ミディアムパーマスタイル					パーマをあてる・ロッド選定からパネルの引き出し・角度・スライス巻き方によつての仕上がり理解			
第7回	ショートパーマスタイル					パーマのバリエーション～薬剤知識・カット・スタイルに合わせた巻き方			ウイッグ②・テキスト
第8回	ショートパーマスタイル					パーマのバリエーション～薬剤知識・カット・スタイルに合わせた巻き方			
第9回	ショートパーマスタイル					パーマのバリエーション～薬剤知識・カット・スタイルに合わせた巻き方			
第10回	ショートパーマスタイル					パーマのバリエーション～薬剤知識・カット・スタイルに合わせた巻き方			
第11回	ショートパーマスタイル					パーマをあてる・ロッド選定からパネルの引き出し・角度・スライス巻き方によつての仕上がり理解			
第12回	ショートパーマスタイル					パーマをあてる・ロッド選定からパネルの引き出し・角度・スライス巻き方によつての仕上がり理解			
第13回	作品作成					学んだ内容を取り入れたフリーパーマスタイル制作			ウイッグ③・テキスト
第14回	作品作成					学んだ内容を取り入れたフリーパーマスタイル制作			
第15回	作品発表会					作品発表を行い、サロン様に評価していただく			
成績評価方法									
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上									
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準	
定期試験	◎							S(4):90点以上	
小テスト								A(3):80点以上	
宿題授業外レポート								B(2):70点以上	
授業態度			○					C(1):60点以上	
発表・作品					◎		100	D:59点未満 未修得	
演習							評価なし		
出席			○				欠格条件		
担当教員				実務経験紹介					

科目名	美容実習(カラー応用)			単位数	1	科目コード		
授業形態	実習			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	前期	教員実務経験対象	有	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	スタイリストとしてサロンワークに直結した内容を学び、美容師としての奥深さを知る							
授業の一般目標	デザインカラーを理解する→カットスタイルに合わせたカラー技術を施術できる							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	①～④のウィッグはカット応用で使用したもの ⑤のウィッグは新しいものを使用する							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	カラー技術の応用知識を知る	カラーのバリエーション～薬剤選定・スタイルに合わせた技術						
第2回	wig①デザインカラー①の手技	薬剤選定から調合・パネルの引き出し・角度・スライス				ウィッグ①・テキスト		
第3回	wig①デザインカラー①の手技・復習	カラーをいれる・スタイルに合わせた技法選定						
第4回	wig①デザインカラー②の手技	薬剤選定から調合・パネルの引き出し・角度・スライス						
第5回	wig①デザインカラー②の手技・復習	カラーをいれる・スタイルに合わせた技法選定						
第6回	wig②デザインカラー③の手技	薬剤選定から調合・パネルの引き出し・角度・スライス				ウィッグ②・テキスト		
第7回	wig②デザインカラー③の手技・復習	カラーをいれる・スタイルに合わせた技法選定						
第8回	wig②デザインカラー③の手技	薬剤選定から調合・パネルの引き出し・角度・スライス						
第9回	wig②デザインカラー③の手技・復習	カラーをいれる・スタイルに合わせた技法選定						
第10回	wig③デザインカラー③の手技	薬剤選定から調合・パネルの引き出し・角度・スライス				ウィッグ③・テキスト		
第11回	wig③デザインカラー③の手技・復習	カラーをいれる・スタイルに合わせた技法選定						
第12回	wig③デザインカラー③の手技	薬剤選定から調合・パネルの引き出し・角度・スライス						
第13回	wig③デザインカラー③の手技・復習	カラーをいれる・スタイルに合わせた技法選定						
第14回	wig④作品作成	カットスタイル～効果的なカラー技術を施す				ウィッグ④・テキスト		
第15回	wig④作品作成	カットスタイル～効果的なカラー技術を施す				技法選定・施術		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎							S(4):90点以上
小テスト								A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度			○					C(1):60点以上
発表・作品					◎		100	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	美容総合技術			単位数	2	科目コード		
授業形態	講義			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	後期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	国家試験5科目に於ける対策授業							
授業の一般目標	国家試験学科の合格							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	香粧品化学 美容保健 関係法規・制度 衛生管理 美容技術理論 ワークブック 過去問題集							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画 (全体)								
授業計画 (授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備考	
第1回	美容技術理論①			教科書①を中心に復習し、重要ポイントを把握する				
第2回	美容技術理論②			教科書②を中心に復習し、重要ポイントを把握する				
第3回								
第4回	美容保健②			教科書 (皮膚科学)を中心に復習し、重要ポイントを把握する				
第5回				教科書 (香粧品、化学)を中心に復習し、重要ポイントを把握する				
第6回	香粧品化学②			教科書 (香粧品、化学)を中心に復習し、重要ポイントを把握する				
第7回	衛生管理①			教科書 (公衆衛生、環境衛生)を中心に復習し、重要ポイントを把握する				
第8回	衛生管理②			教科書 (感染症)を中心に復習し、重要ポイントを把握する				
第9回	関係法規・制度①			教科書 (法制度、衛生行政の概要)を中心に復習し、重要ポイントを把握する				
第10回	関係法規・制度②			教科書 (美容師法)を中心に復習し、重要ポイントを把握する				
第11回	美容技術理論③			前回迄の授業を踏まえ、確認テストでレベルチェックする				
第12回	美容技術理論④			前回迄の授業を踏まえ、ワークブックでレベルチェックする				
第13回	美容技術理論⑤			過去問題を解き、解答で確認する				
第14回	美容保健③			前回迄の授業を踏まえ、確認テストでレベルチェックする				
第15回	美容保健④			前回迄の授業を踏まえ、ワークブックでレベルチェックする				
第16回	美容保健⑤			過去問題を解き、解答で確認する				
第17回	香粧品化学③			前回迄の授業を踏まえ、確認テストでレベルチェックする				
第18回	香粧品化学④			前回迄の授業を踏まえ、確認テストでレベルチェックする				
第19回	香粧品化学⑤			前回迄の授業を踏まえ、ワークブックでレベルチェックする				
第20回	香粧品化学⑥			過去問題を解き、解答で確認する				
第21回	衛生管理③			前回迄の授業を踏まえ、確認テストでレベルチェックする				
第22回	衛生管理④			前回迄の授業を踏まえ、確認テストでレベルチェックする				
第23回				前回迄の授業を踏まえ、ワークブックでレベルチェックする				
第24回				過去問題を解き、解答で確認する				
第25回	関係法規・制度③			前回迄の授業を踏まえ、確認テストでレベルチェックする				
第26回	関係法規・制度④			前回迄の授業を踏まえ、ワークブックでレベルチェックする				
第27回	関係法規・制度⑤			過去問題を解き、解答で確認する				
第28回	5教科総合演習①			5教科過去問題を解き、解答で確認する				
第29回	5教科総合演習②			5教科過去問題を解き、解答で確認する				
第30回	5教科総合演習③			5教科過去問題を解き、解答で確認する				
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				50	A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度			○					C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	

担当教員		実務経験紹介	
------	--	--------	--

科目名	ヘアケアマイスター		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	美容師として必要な現状説明、技術説明、お手入れ説明の責任を果たす為、毛髪科学、カウンセリング、ヘアケア剤の知識を学ぶ							
授業の一般目標	ヘアケアマイスター検定(プライマリー)資格取得							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	ヘアケアマイスターブック改訂版							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備考	
第1回	毛髪の構造と働き		メラニン色素について、髪色を決めるメラニン色素、キューティクルの構造と役割、細胞膜複合体の構造と役割					
第2回	毛髪の構造と働き		コルテックスの構造と役割、間充物質の働き、メデュラの構造と役割					
第3回	タンパク質とは		毛髪は何かからできている？					
第4回	毛髪の4つの結合		毛髪の4つの結合、PHとは？					
第5回	毛髪のダメージの原因、ダメージプロセス		毛髪のダメージは表面からダメージのケアは毛髪内部から					
第6回	毛髪のカウンセリングに対して		髪質を見極める、お客様のライフスタイルとスタイリングを知る					
第7回	お客様の悩みを聞く＆求める要望		お客様から信用を得てコミュニケーションをしやすくする					
第8回	現状の毛髪の状態を見極める		問診、視診、触診を行う					
第9回	髪質を見極める・クセ毛について		髪質の特徴と性質、クセ毛の特徴、種類					
第10回	髪質と施術時間の関係・毛髪のダメージレベル		ダメージレベルの見分け方、キューティクルの重なり度合い、ヘアカラー毛のダメージレベルの見分け方					
第11回	技術プロセスにおける前、後処理の目的		前処理の目的、後処理の目的					
第12回	毛髪の健康な状態とは・毛髪の健康診断、毛髪のデータ		毛髪の物理的・化学的性質					
第13回	界面活性剤について・シャンプー剤の成分と働き、効果		界面活性剤とは、シャンプーの働き、洗浄のメカニズム					
第14回	トリートメント剤、スタイリング剤の成分と働き、効果		構成成分、配合目的、一般的な原料名					
第15回	ホームケア アドバイス		毛髪の状態に合わせたヘアケア剤の選択、スタイリング、お手入れアドバイス					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物＆授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ヘアデザイン専攻Ⅰ（専攻授業）		単位数	2	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	スタイリストとしてサロンワークに直結した内容を学び、美容師としての奥深さを知る							
授業の一般目標	IMAIメソッド（スパシャンプー、スパベーション）ディプロマ取得							
受講条件	出席率80％以上が前提となる							
事前学習について （テキスト・参考書等）	IMAIメソッド参考プリントにて手技復習・相モデル練習							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画（全体）								
授業計画（授業単位）								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	スパシャンプー	頭皮を傷めないシャンプー技法				IMAIメソッド シャンプーコース		
第2回	スパシャンプー	頭皮のクレンジングマッサージ						
第3回	スパシャンプー	フィッティング法を学び血液循環を促す						
第4回	スパベーション	呼吸に沿ったリズムへのマッサージ効果と肌に密着できるスキンシップ技術を学ぶ				IMAIメソッド スパベーションコース		
第5回	スパベーション	マッサージ効果のする体幹、腕、手のひら、指の使い方						
第6回	スパベーション	頭皮診断基礎						
第7回	スパベーション	スカルブマッサージ技法（基礎）						
第8回	スパベーション	クレンジングの揉み出し技法						
第9回	スパベーション	緊張と緩和的技法						
第10回	スパベーション、ハンドマッサージ	ブラッシングの基礎						
第11回	スパベーション	振り返り（まとめ）						
第12回	スパベーション	ディプロマ試験				ポリカ教材使用		
第13回	ポリカ カット基礎	体幹トレーニング、姿勢、体の使い方						
第14回	ポリカ カット基礎	ポリカウィッグの仕組みを知りカットトレーニング						
第15回	ポリカ カット基礎	ポリカウィッグでベーションカットスタイル作成						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80％以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					100	S(4):90点以上
小テスト								A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度								C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ヘアデザイン専攻Ⅱ（専攻授業）			単位数	2	科目コード		
授業形態	実習			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	選択			開設時期	前期	教員実務経験対象	有	
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	・よりお客様からもニーズがあり、サロンで活用できるクオリティの高いカット技術の知技を身につける。 ・JHCAダブルスター検定試験合格を目標とする。							
授業の一般目標	カットのデザイン性・ホイルワーク技術、必要性を学ぶ。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について （テキスト・参考書等）	JHCAヘアカラー入門 改訂版							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画（全体）								
授業計画（授業単位）								
回	主 題			授 業 内 容			備 考	
第16回	WIG① デザインカット			マッシュウルフ				
第17回	WIG① デザインカット			マッシュ				
第18回	WIG① デザインカット			ショートレイヤー				
第19回	WIG② デザインカット			フェードカット				
第20回	WIG② デザインカット			学んだ内容を取り入れたフリースタイル作成・発表・サロン様に評価していただく				
第21回	JHCAダブルスター検定 対策授業			ブロッキング・ホイルワーク				
第22回	JHCAダブルスター検定 対策授業			ブロッキング・ホイルワーク				
第23回	JHCAダブルスター検定 対策授業			ブロッキング・ホイルワーク				
第24回	JHCAダブルスター検定 対策授業			ブロッキング・ホイルワーク				
第25回	JHCAダブルスター検定 対策授業			ブロッキング・ホイルワーク				
第26回	JHCAダブルスター検定 対策授業			ブロッキング・ホイルワーク・タイム計測				
第27回	JHCAダブルスター検定 対策授業			ブロッキング・ホイルワーク・タイム計測				
第28回	JHCAダブルスター検定 対策授業			ブロッキング・ホイルワーク・タイム計測				
第29回	JHCAダブルスター検定 対策授業			ブロッキング・ホイルワーク・タイム計測				
第30回	JHCAダブルスター検定 対策授業			ブロッキング・ホイルワーク・タイム計測				
成績評価方法								
単位認定 作品作成60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験								S(4):90点以上
小テスト								A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度								C(1):60点以上
発表・作品	◎	◎	◎	◎	◎		100	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	メイク・ブライダル専攻Ⅰ（専攻授業）		単位数	2	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	メイクに強いスタイリストになる為、イメージメイク、ショーメイク、撮影用メイクを学ぶ							
授業の一般目標	イメージを形にできる能力を身に付けコンテスト、ヘアショーの作品制作に活かす							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について （テキスト・参考書等）	①美容実習2 ②美容技術理論2 ③JMAメイク検定2級テキスト							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容			備 考		
第1回	洋風アップスタイル・ヘアアレンジ		編み込み、ヘアアレンジの応用			テキスト①・テキスト②		
第2回	洋風アップスタイル・ヘアアレンジ		編み込み、ヘアアレンジの応用					
第3回	着付け（ドレス）		ドレスフィッティング					
第4回	ポイントメイク基礎		ポイントクレンジング～ベースメイク、チーク、ローライト、ハイライト			テキスト③		
第5回	実技チェック・復習		ポイントクレンジング～ベースメイク、チーク、ローライト、ハイライト					
第6回	ポイントメイク基礎		アイブロウ、アイシャドウ、アイライナー					
第7回	実技テスト		ポイントクレンジング～アイブロウ、アイシャドウ					
第8回	ポイントメイク基礎		アイライナー復習・ビューラー・マスカラ					
第9回	検定対策（ポイントメイク）		ポイントクレンジング～アイブロウ、アイシャドウ					
第10回	ポイントメイク応用		ショーメイク					
第11回	検定対策		JMA技術検定2級試験 模擬試験					
第12回	検定対策		JMA技術検定2級試験 模擬試験					
第13回	検定対策		JMA技術検定2級試験 模擬試験					
第14回	検定対策		JMA技術検定2級試験 模擬試験					
第15回	JMA技術検定2級試験		JMA技術検定2級試験 実施					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度			○				20	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	メイク・ブライダル専攻Ⅱ（専攻授業）		単位数	2	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	ヘアアレンジ・洋風アップ・和風アップ・着付けを学び、サロンでのヘアメイク関連の業務、職業に活かす。							
授業の一般目標	様々なヘアアレンジ、アップスタイル、着付けの基礎知識知識・技術を学ぶ							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について （テキスト・参考書等）	①美容技術理論1 ②美容実習1 ③美容実習2							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画（全体）								
授業計画（授業単位）								
回	主 題		授 業 内 容			備 考		
第1回	アップスタイル 1		着付けの基礎知識・着付けの技術			テキスト①・テキスト②		
第2回	アップスタイル 2		着付けの基礎知識・着付けの技術			テキスト①・テキスト②		
第3回	アップスタイル 3		着付けの基礎知識・着付けの技術			テキスト①・テキスト②		
第4回	アップスタイル 4		着付けの基礎知識・着付けの技術			テキスト①・テキスト②		
第5回	和装スタイル		着付けの基礎知識・着付けの技術			テキスト①・テキスト②		
第6回	日本髪		ドレス・フォーマル・カジュアル 様々な服装に合うアップスタイル			テキスト②・③		
第7回	日本髪		ドレス・フォーマル・カジュアル 様々な服装に合うアップスタイル			テキスト②・③		
第8回	着付け（浴衣・振袖）		ドレス・フォーマル・カジュアル 様々な服装に合うアップスタイル			テキスト②・③		
第9回	着付け（浴衣・振袖）		着物に似合うヘアアレンジ・アップスタイル			テキスト②・③		
第10回	浴衣着付け・ヘアアレンジ		着物に似合うヘアアレンジ・アップスタイル			テキスト②・③		
第11回	浴衣着付け・ヘアアレンジ					テキスト②・③		
第12回	ドレス（花嫁）		ウェディングドレス（挙式スタイル）に適したヘア・メイク			テキスト②・③		
第13回	ドレス（花嫁）		カラードレス（披露宴スタイル）に適したヘア・メイク			テキスト②・③		
第14回	ドレススタイル		ドレスの知識、相モデル			テキスト②・③		
第15回	ドレススタイル		相モデル			テキスト②・③		
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	カラーコーディネートⅠ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	授業は座学を中心とする。 理解を確認するために、適宜チェックテストを行い、知識を確実なものとするようにする。 また、理解しやすいよう、適宜視覚教材を利用する。							
授業の一般目標	パーソナルカラリスト検定3級合格(2月受験)							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	パーソナルカラリスト検定3級公式テキスト							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容			備考		
第1回	色彩学とは		導入					
第2回	四季の自然を表わす色		春／夏／秋／冬に関わる色について					
第3回	日本の色の歴史		特徴的な伝統色					
第4回	色と生活		周りを取り巻く様々な色、衣食住					
第5回	色の種類		赤・橙・黄・緑・青・紫・白黒・グレー系統					
第6回	色の仕組み		物体色と光源色、無彩色と有彩色					
第7回	CUS表色系		カラーアンダーートンシステム					
第8回	色の三属性と対比現象		明度・彩度・色相					
第9回	色の感情効果		明度・彩度・色相に関する心理効果					
第10回	cus配色効果		アンダーートンとは					
第11回	ファッション概論		基本的な配色テクニック					
第12回	ブライダルと色彩		ウエディングと配色調和					
第13回	パーソナルカラー		肌色のしくみ					
第14回	パーソナルカラーの特徴		人の特徴によるアンダーートン パーソナルカラー					
第15回	検定対策		パーソナルカラー 3級検定試験対策					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	カラーコーディネートⅡ			単位数	1	科目コード		
授業形態	講義			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	選択			開設時期	前期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	授業は座学を中心とする。 理解を確認するために、適宜チェックテストを行い、知識を確実なものとするようにする。 また、理解しやすいよう、適宜視覚教材を利用する。							
授業の一般目標	パーソナルカラリスト検定2級合格							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	パーソナルカラリスト検定2級公式テキスト							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備考	
第1回	色彩と文化 染料・染色と顔料			天然染料・日本の染料、顔料、合成染料				
第2回	ヨーロッパの色の歴史			古代ギリシャ、ローマ、中世、ルネッサンス、19世紀、20世紀				
第3回	色彩理論 混色			減法混色、加法混色、中間混色、生活の中の混色				
第4回	照明と色			光源の種類と用途、光色と演色性				
第5回	色の知覚効果			光、面積、対比による色の見え方				
第6回	基本的な配色テクニック			色相、色調配色 配色の構成				
第7回	CUS表色系における配色調和とアンダートーン			色調の変化とアンダートーン				
第8回	ファッション概論			トータルコーディネーションの必要性				
第9回	ファッションとイメージワード			ファッションとイメージワード				
第10回	ディスプレイと色彩			ディスプレイの基準				
第11回	インテリアと色彩			インテリアと色彩				
第12回	パーソナルカラーとスタイリング			パステルサマー、ブリリアントウインター、ブライトスプリング、ディープオータムのスタイリング				
第13回	ブライダルと色彩			パステルサマー、ブリリアントウインター、ブライトスプリング、ディープオータムのスタイリング				
第14回	パーソナルシーズンカラー120			人の特徴によるアンダートーン パーソナルカラー				
第15回	検定対策			パーソナルカラー2級検定試験対策				
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ビューティビジネス			単位数	1	科目コード		
授業形態	講義			対象学生	1年生	開設期	半期	
区分	選択			開設時期	前期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ビューティーコーディネーターとして、社会人として必要な資質を磨く							
授業の一般目標	ビューティーコーディネーターの知識、スキル、ビューティーコーディネーターの仕事を学ぶ中で、サービス業に従事する者としての心構えを学ぶ。合わせて、希望する企業の内定を獲得する為に、きちんと履歴書を書く・思いの伝わるエントリーシートを書けるようにする。どのような人材が求められているのかを知り、面接でしっかり自己表現ができるようにする。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	ビューティーコーディネート検定テキスト3級							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備考	
第1回	ビューティーコーディネーターⅠ ビューティーコーディネーターについて理解する サロンにおけるビジネスキャリア	1. 社会人としての職業意識 2. 美容業界で働くということ 3. 仕事への取り組み方① 4. 仕事への取り組み方② 5. 顧客志向の姿勢を学ぶ ワーク 1分間スピーチ「どのような社会人になりたいか」 グループワーク「愛されるスタッフとはどのようなスタッフか」						
第2回	ビューティーコーディネーターⅡ ホスピタリティの考え方 ビジネスコミュニケーション	1. ホスピタリティの考え方 2. 言語によらないコミュニケーション 3. サロンスタッフとしての身だしなみを知る 4. 1分間スピーチ「サロンでのおもてなしにはどのような事があるか」						
第3回	インターンシップに向けて	インターンシップに向けてのマナー 挨拶・実習中の諸注意・お礼状の書き方・封筒の書き方を学ぶ						
第4回	接客の基本と電話の受け方・かけ方	1. 印象の良い聴き方と話し方2. 敬語3. 電話の受け方かけ方4. 名刺交換						
第5回	ビューティーコーディネーターⅢ サロン内のコミュニケーション	1. スタッフ間の円滑なコミュニケーション 2. 就業中の基本マナー3. 指示の受け方と報告の仕方 4. 報告書の書き方 5. 会議への参加を学ぶ 1分間スピーチ「サロン内で良好なコミュニケーションを築く為にはどのような事が必要か」 グループワーク「チームで報告書作成」						
第6回	ビューティーコーディネーターⅣ ビューティーコーディネーターとは	1. ビューティーコーディネーターの役割と能力・キャリアプラン 2. 生産性を高めるフロアマネジメント グループワーク「生産性を上げる為の試み」を考える						
第7回	ビューティーコーディネーターⅤ 美意識・ファッションコーディネート	1. おしゃれ・トレンドを理解しアドバイスする為に 2. ファッションの歴史						
第8回	サロンのメディア活用	1. 電子メール2. 表とグラフ3. ホームページ4. ビジネス用語						
第9回	応募書類の書き方	履歴書の書き方・添え状の書き方・封筒の書き方 志望動機・自己PRの書き方 面接でよく出る質問を学ぶ						
第10回	自己PR発表会	前の週で作成した自己PRの内容と話し方のチェック						
第11回	お客様に敬意を示せる立ち振る舞い	ウォーキング、物の受け渡し、ジャケットの脱ぎ着等の所作						
第12回	自己プロデュースコラージュ作成	自分を表現するファッション・ヘアメイク表現を考える						
第13回	自分の魅力全身コーディネート発表会①	夏休み前に作成した自己プロデュースプランの発表会						
第14回	自分の魅力全身コーディネート発表会②	夏休み前に作成した自己プロデュースプランの発表会						
第15回	前期試験							
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	

担当教員		実務経験紹介	
------	--	--------	--

科目名	ビューティコーディネート			単位数	1	科目コード		
授業形態	講義			対象学生	1年生	開設期	半期	
区分	選択			開設時期	前期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	専門的な技術・理論を学び就職に役立てる							
授業の一般目標	・表現力を始めとするコミュニケーション能力 ・立ち居振る舞いやマナーといった人間力 ・出会った一瞬で、その人に似合うのかを見極める完成を養うスタイリング能力							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	ビューティコーディネータ検定テキスト2級・検定過去問題集 (注意：2級P88`99, P114`123, P128`147は他の先生がご担当！)							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備 考	
第1回	オリエンテーション・3級復習と2級説明			授業の進め方・試験説明・3級復習・2級挑戦の目的など				
第2回	サロンオペレーションとチームワーク			信頼されるスタッフとは、チームワークとは				
第3回	サロンオペレーションの向上			CSとES、サロンワークの全体像				
第4回	社内トレーナーに必要な心構えとスキル			ティーチングとコーチングの基本				
第5回	ファッションのスタイル別評価			最近のファッションスタイル・ブランド				
第6回	カウンセリングの基本			相手を思う技術・安心感を与える会話				
第7回	カウンセリングの技術			カウンセリングの手順と注意事項				
第8回	店販ヘアケアコミュニケーション			施述の中での商品説明、説明の組み立て				
第9回	クレーム対応			クレーム対応の基本				
第10回	トータルビューティメニューの知識			メイク、健康情報				
第11回	カラーコーディネーションの基本 等			パーソナルカラー				
第12回	接客対応			店販商品の販促				
第13回	接客対応			店販商品の販促				
第14回	検定問題集			過去問に挑戦・回答解説				
第15回	2級模擬試験・検定注意事項			模擬試験・検定注意事項説明				
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	インターンシップⅠ			単位数	1	科目コード		
授業形態	研修			対象学生	1年生	開設期	通期	
区分	選択科目			開設時期	前・後期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	実際のサロン勤務を体験(研修)し、これを通して、専門知識を実社会においてどのように活かしていくべきか、今後の自分にとって何が必要かを考える能力を身に付けるとともに就職に繋げる。							
授業の一般目標	1. サロン様の実践的経験 2. 職業意識の育成 3. いろいろな人の持つ考え方や行動に触れることにより、学生としてではなく、社会人としてのマナーや責任感を身につけることができる。実践的な経験により、自主的に行動ができる人材を育成する。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	ネットワークサロン・インターンシップ先の情報収集、特徴を調べ把握する							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	インターンシップガイダンス	インターンシップの意義と目的について概要説明。ビジネスマナーについての確認						
第2回	サロン研究	サロン様の経営方針・教育方針を調べ、自分に合ったサロン様を研究する						
第3回	インターンシップ事前準備	インターンシップ先を決定する。インターンシップ先誓約書記入						
第4回～5回	インターンシップ実習期間①	自宅近隣のネットワークサロンで実務研修						
第6回～7回	インターンシップ実習期間①	受入れ事業所で就業体験・実務記録の記入					8月下旬(1年)	
第8回～9回	インターンシップ実習期間①	インターン先の情報共有・実務記録の完成・提出 お礼状の発送					8月下旬(1年)	
第10回～11回	インターンシップ実習期間②	興味のあるサロンで実務研修						
第12回～13回	インターンシップ実習期間②	受入れ事業所で就業体験・実務記録の記入					12月下旬(1年)	
第14回～15回	インターンシップ実習期間②	インターン先の情報共有・実務記録の完成・提出 お礼状の発送						
成績評価方法								
単位認定 実務記録提出								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験								S(4):90点以上
小テスト								A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			100	B(2):70点以上
授業態度								C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	インターンシップⅡ		単位数	1	科目コード			
授業形態	研修		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	選択課目		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	実際のサロン勤務を体験(研修)し、これを通して、専門知識を実社会においてどのように活かしていくべきか、今後の自分にとって何が必要かを考える能力を身に付けるとともに就職に繋げる。							
授業の一般目標	1.サロン様の実践的経験 2.職業意識の育成 3.いろいろな人の持つ考え方や行動に触れることにより、学生としてではなく、社会人としてのマナーや責任感を身につけることができる。実践的な経験により、自主的に行動ができる人材を育成する。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	ネットワークサロン・インターンシップ先の情報収集、特徴を調べ把握する							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容			備考		
第1回	インターンシップガイダンス		インターンシップの意義と目的について概要説明。ビジネスマナーについての確認					
第2回	サロン研究		サロン様の経営方針・教育方針を調べ、自分に合ったサロン様を研究する					
第3回	インターンシップ事前準備		インターンシップ先を決定する。インターンシップ先誓約書記入					
第4回	インターンシップ実習期間③		就職を見据えたサロンで実務研修					
第5回	インターンシップ実習期間③		受入れ事業所で就業体験・実務記録の記入					
第6回	インターンシップ実習期間③		受入れ事業所で就業体験・実務記録の記入					
第7回	インターンシップ実習期間③		受入れ事業所で就業体験・実務記録の記入					
第8回	インターンシップ実習期間③		受入れ事業所で就業体験・実務記録の記入					
第9回	インターンシップ実習期間③		受入れ事業所で就業体験・実務記録の記入					
第10回	インターンシップ実習期間③		受入れ事業所で就業体験・実務記録の記入					
第11回	インターンシップ実習期間③		受入れ事業所で就業体験・実務記録の記入					
第12回	インターンシップ実習期間③		受入れ事業所で就業体験・実務記録の記入					
第13回	インターンシップ実習期間③		受入れ事業所で就業体験・実務記録の記入					
第14回	インターンシップ実習期間③		受入れ事業所で就業体験・実務記録の記入					
第15回	インターンシップ実習期間③		インターン先の情報共有・実務記録の完成・提出 お礼状の発送					
成績評価方法								
単位認定 実務記録提出								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験								S(4):90点以上
小テスト								A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			100	B(2):70点以上
授業態度								C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	美容実習(コンテストⅠ)			単位数	1	科目コード		
授業形態	実習			対象学生	1年生	開設期	半期	
区分	選択			開設時期	前期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	6月・7月・8月・9月にあるコンテスト出場種目の集中練習							
授業の一般目標	出場種目で好成績を残す							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	コンテスト入賞作品を参考にして研究、レベルアップに繋げる							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備考	
第1回	S P Cコンテストに向けて			出場種目の技術練習・作品作成			日程未定	
第2回	S P Cコンテストに向けて			出場種目の技術練習・作品作成			日程未定	
第3回	S P Cコンテストに向けて			出場種目の技術練習・作品作成				
第4回	美容週間コンテストに向けて			出場種目の技術練習・作品作成			日程未定	
第5回	美容週間コンテストに向けて			出場種目の技術練習・作品作成				
第6回	美容週間コンテストに向けて			出場種目の技術練習・作品作成			日程未定	
第7回	美容組合コンテストに向けて			出場種目の技術練習・作品作成				
第8回	美容組合コンテストに向けて			出場種目の技術練習・作品作成			日程未定	
第9回	美容組合コンテストに向けて			出場種目の技術練習・作品作成				
第10回	就活eggフォトコン・JKコンテスト			出場種目の技術練習・作品作成			日程未定	
第11回	就活eggフォトコン・JKコンテスト			出場種目の技術練習・作品作成				
第12回	就活eggフォトコン・JKコンテスト			出場種目の技術練習・作品作成				
第13回	理美容甲子園に向けて			出場種目の技術練習・作品作成			日程未定	
第14回	理美容甲子園に向けて			出場種目の技術練習・作品作成				
第15回	理美容甲子園に向けて			出場種目の技術練習・作品作成			日程未定	
成績評価方法								
単位認定 出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験								S(4):90点以上
小テスト								A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度								C(1):60点以上
発表・作品					◎		100	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	美容実習(コンテストⅡ)			単位数	1	科目コード		
授業形態	実習			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	選択			開設時期	前期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	6月・7月・8月・9月にあるコンテスト出場種目の集中練習							
授業の一般目標	出場種目で好成績を残す							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	コンテスト入賞作品を参考にして研究、レベルアップに繋げる							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	1. 授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	1. 美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	1. 日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備 考	
第1回	S P Cコンテストに向けて			出場種目の技術練習・作品作成			日程未定	
第2回	S P Cコンテストに向けて			出場種目の技術練習・作品作成			日程未定	
第3回	S P Cコンテストに向けて			出場種目の技術練習・作品作成				
第4回	美容週間コンテストに向けて			出場種目の技術練習・作品作成			日程未定	
第5回	美容週間コンテストに向けて			出場種目の技術練習・作品作成				
第6回	美容週間コンテストに向けて			出場種目の技術練習・作品作成			日程未定	
第7回	美容組合コンテストに向けて			出場種目の技術練習・作品作成				
第8回	美容組合コンテストに向けて			出場種目の技術練習・作品作成			日程未定	
第9回	美容組合コンテストに向けて			出場種目の技術練習・作品作成				
第10回	就活eggフォトコン・JKコンテスト			出場種目の技術練習・作品作成			日程未定	
第11回	就活eggフォトコン・JKコンテスト			出場種目の技術練習・作品作成				
第12回	就活eggフォトコン・JKコンテスト			出場種目の技術練習・作品作成				
第13回	理美容甲子園に向けて			出場種目の技術練習・作品作成				
第14回	理美容甲子園に向けて			出場種目の技術練習・作品作成			日程未定	
第15回	理美容甲子園に向けて			出場種目の技術練習・作品作成			日程未定	
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	美容実習（サロンワークⅠ）			単位数	2	科目コード		
授業形態	実習			対象学生	1年生	開設期	通期	
区分	選択			開設時期	前・後期	教員実務経験対象	-	
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	サロン実務演習							
授業の一般目標	お客様・先輩スタッフから信頼を持って頂ける人材になる。サロンフロア業務の全てを把握し、広い視野を持って実践できる。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について （テキスト・参考書等）	ビジネスマナー 日本理容美容教育センター							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画（全体）								
授業計画（授業単位）								
回	主 題			授 業 内 容			備 考	
第1回-2回	正しい動作			挨拶の大切さ・意味、礼儀作法、ルールとマナー				
第3回-4回				基本動作（立ち姿勢、歩き方、お辞儀など）				
第5回-6回	社会人としての基本			学生と社会人の違い、コンプライアンス				
第7回-8回				責任感・規律性・積極性・協調性				
第9回-10回				サロンスタッフとしての身だしなみとファッション（美意識）				
第11回-12回	ホスピタリティー			おもてなしとは、接客とは				
第13回-14回	美容業の展望			美容師ができること・すべきこと				
第15回-16回				美容師ができること・すべきこと				
第17回-18回	職場の人間関係			チームワークとコミュニケーション				
第19回-20回				上司や先輩との話の仕方、話の聞き方				
第21回-22回				気配り・心配り、個性の尊重、自分の役割				
第23回-24回	サロンワーク			技術上達のためにすべきこと				
第25回-26回				技術上達のためにすべきこと				
第27回-28回				技術上達のためにすべきこと				
第29回-30回	総合授業			社会人としての職業意識の振り返り・今後の目標				
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	美容実習(サロンワークⅡ)			単位数	2	科目コード		
授業形態	実習			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	選択			開設時期	前期	教員実務経験対象	有	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	サロン実務演習							
授業の一般目標	お客様・先輩スタッフから信頼を持って頂ける人材になる。サロンフロアー業務の全てを把握し、広い視野を持って実践できる。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	ビジネスマナー 日本理容美容教育センター							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備考	
第1回	正しい動作	挨拶の大切さ・意味、礼儀作法、ルールとマナー						
第2回		基本動作（立ち姿勢、歩き方、お辞儀など）						
第3回	社会人としての基本	学生と社会人の違い、コンプライアンス					アシスタント業務全般Ⅲ	
第4回		責任感・規律性・積極性・協調性						
第5回		サロンスタッフとしての身だしなみとファッション(美意識)						
第6回	ホスピタリティー	おもてなしとは、接客とは						
第7回	美容業の展望	美容師ができること・すべきこと					アシスタント業務全般Ⅲ	
第8回		美容師ができること・すべきこと						
第9回	職場の人間関係	チームワークとコミュニケーション					アシスタント業務全般Ⅲ	
第10回		上司や先輩との話の仕方、話の聞き方						
第11回		気配り・心配り、個性の尊重、自分の役割						
第12回	サロンワーク	技術上達のためにすべきこと					アシスタント業務全般Ⅲ	
第13回		技術上達のためにすべきこと						
第14回		技術上達のためにすべきこと						
第15回	前期授業の振り返り	社会人としての職業意識の振り返り・今後の目標						
第16回	接客の基本	接遇について						
第17回	敬語	言葉づかい・接客用語・お客様との会話						
第18回	電話対応	電話の受け方・かけ方						
第19回	サロンでの1日	掃除～身支度～朝礼～予約のお客様の受け入れ準備						
第20回		終礼～お客様情報の共有～次回来店までのアプローチ						
第21回	伝わるDM・POP	DMの書き方・効果的なPOPの作り方						
第22回		DMの書き方・効果的なPOPの作り方						
第23回		トレンドを理解する（情報収集）						
第24回	スタッフとしての立ち居振る舞い	カルテを記入いただきプレカウンセリング～ヒヤリング～提案						
第25回		担当への報告、連絡、相談～セット面への誘導～言葉掛け～クロス掛け						
第26回		技術準備～技術ヘルプ						
第27回		印象の良い自己紹介～キャンペーン告知						
第28回		店販品の促進						
第29回	自己研鑽による成長	コンテスト・セミナーへの参加						
第30回	後期授業の振り返り	自己評価と今後の目標						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得

演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	就職ガイダンス	単位数	1	科目コード				
授業形態	講義	対象学生	1年生	開設期	半期			
区分	選択	開設時期	後期	教員実務経験対象	-			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	現役美容師の講話を中心に、グループワーク、ディスカッション形式を取り入れた授業							
授業の一般目標	「業界で求められる人材」の考え方を学ぶ。役職によつての具体的な仕事内容・役割・考え方を知る事で業界でのキャリアアップに繋がる。インターンシップの心構えができ、自己の立場と役割、立ち振る舞いが理解できる。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	サロン情報収集・特徴把握							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備考			
第1回	「ネットワークサロンについて理解する」 「美容業の現状～これから」	ネットワークサロンを知り、インターンシップ・就職先を考える。						
第2回	ネットワークサロン	内容検討			講話・レポート提出			
第3回	ネットワークサロン	内容検討						
第4回	ネットワークサロン	内容検討			講話・レポート提出			
第5回	サロンアシスタントの役割 「仕事内容を理解する」	話を聞く姿勢を養う サロンアシスタントの具体的な仕事内容・取り組みを講話にて知る。						
第6回	サロンスタイリスト「スタイリストになるまでの苦勞・やりがい」 「業界で活躍する為には？」	話を聞く姿勢を養う。売れているスタイリストの方に講話頂く。 グループワークを通してさまざまな考え方を知る。			レポート提出 グループワーク			
第7回	サロンオーナー「これからのサロン作り」 「必要とされる人材とは」	人材育成、教育制度など「業界で活躍できる人材」になる為には						
第8回	ネットワークサロン	内容検討			講話 レポート提出			
第9回	ネットワークサロン	内容検討						
第10回	ネットワークサロン	内容検討			講話 レポート提出			
第11回	ネットワークサロン	内容検討						
第12回	学内合同企業説明会	サロン、企業様を知り、就職先を考える機会にする						
第13回	学内企業説明会 振り返り	自分が話を聞かせて頂いたサロン様情報を発表し全体で共有する 情報交換で複数のサロン様を知る。						
第14回	模擬面接	就職面接で気を付ける事、自分を魅力的に見せる為には			面接練習			
第15回	ネットワークサロン(面接ブース) 就職試験の面接で気を付ける事	就職試験に向けて実践的な「面接」の緊張感を知り、自己表現、表情、言葉遣い、社会人としてのマナーを学ぶ。サロン様のアドバイスを受けて自己改善に努める。			面接シートにて評価 サロン様よりアドバイスを受 く			
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	キャリアデザイン			単位数	1	科目コード		
授業形態	講義			対象学生	1年生	開設期	半期	
区分	選択			開設時期	後期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	就職活動の為の、キャリアガイダンス 1. 自己分析 2. プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を身に付ける 3. 仕事を知る							
授業の一般目標	1. 自分を知る事で「やりたい事」「できる事」「将来像」を明確にしていく。 2. プレゼンテーション能力を身に付ける。 3. 社会人として必要なコミュニケーション能力を身に付ける							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備 考	
第1回	キャリアサポート「自己分析」			「過去の振り返り」「自己理解」				
第2回	「幸せの心理学セミナー」			「人生の目的」「幸せの領域」「マズローの5段階欲求説」			講話 グループワーク	
第3回	「幸せの心理学セミナー」			「人間関係」「対人関係」「脳の構造」「コミュニケーション」				
第4回	「幸せの心理学セミナー」			「エゴグラム式パーソナル分析」			講話 レポート提出	
第5回	キャリアサポート「他己分析」			「クラスメイトを知る」「他己理解」				
第6回	キャリアサポート「応募書類について」			履歴書の書き方、自己PR作成				
第7回	キャリアサポート「SMBC講話」			生活設計についての講話				
第8回	「ニュースタッフセミナー」			ビジネスマナー研修 「接客の基本」			復習テスト	
第9回	「ニュースタッフセミナー」			ビジネスマナー研修 「敬語、クッション言葉」				
第10回	「ニュースタッフセミナー」			ビジネスマナー研修 「電話対応、ロールプレイング」			復習テスト	
第11回	キャリアサポート「合同企業説明会について」			企業説明会所作、心構え				
第12回	学内合同企業説明会							
第13回	「ニュースタッフセミナー」			ビジネスマナー研修 「電話の取次ぎ、ロールプレイング」			復習テスト	
第14回	「ニュースタッフセミナー」			ビジネスマナー研修 「席次、名刺交換」				
第15回	期末 筆記試験			小論文700～1000文字「キャリアデザインの授業で身に付いたこと～就職して成し遂げたいこと」				
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 筆記試験 小論文40点満点(40%) 復習テスト・レポート提出(60%)各10点満点								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験		○					50	S(4):90点以上
小テスト	○						30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート				○			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	基本IT技術	単位数	1	科目コード				
授業形態	講義・実習	対象学生	1年生	開設期	半期			
区分	選択	開設時期	前期	教員実務経験対象	-			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	コンピュータを利用した事務作業に必要な文書の作成やマナーについて学習。 必要な技術を効率良く行えるよう繰り返し練習する。 必要に応じたコンピュータの利用技術の取得。							
授業の一般目標	①コンピュータの基礎を理解し、メールやフォルダの作成ができるようにする。 ②Wordの操作を学習し、ビジネス文書や見栄えの良い文書を作成できるようにする。 ③ビジネス文書やビジネスメールについての構成やマナーを理解する。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	Excel 2013 クイックマスター＜基本編＞ Word 2013 クイックマスター＜基本編＞ Power Point 2013 クイックマスター							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	基礎ITの必要性と基礎知識の説明ができる。							
☐ 思考・判断の観点	事務作業に必要な各領域についての理解と活用方法を覚える。							
☐ 関心・意欲の観点	基礎的なIT技術の関心を広げ、苦手分野を克服しながら課題をこなす。							
☐ 態度の観点								
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的なIT知識・技術を修得し、現場で必要な情報処理が行えるようになる。 顧客管理等のパソコン管理が行え、作業効率を上げることができる。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備考			
第1回	授業開始について コンピュータの基本操作とWordの基本	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 ログイン、メールアドレス登録、課題提出の仕方 Wordの画面構成と文字入力						
第2回	ビジネス文書の作成	ビジネス文書・メールの基礎知識 ページ設定、文字修飾について						
第3回	文書の作成	挨拶文の挿入、段落番号、インデントやタブについて						
第4回	表の作成	表を挿入し、編集する						
第5回	表の編集	表の体裁を整える						
第6回	表現力アップ	ワードアートや画像などの挿入・編集						
第7回	表現力アップ	図形、テキストボックスの作成・編集						
第8回	ビジュアル文書の作成	SmartArtグラフィック、ページ罫線の挿入・編集						
第9回	長文の作成	ヘッダー・フッター、段組みについて						
第10回	プレゼンテーション資料の基本	画面構成とスライドの作成						
第11回	オブジェクトや表の挿入・編集	画像や図形・図表、表の挿入と編集						
第12回	特殊効果の設定	画面の切り替え効果やアニメーション効果						
第13回	プレゼンテーションと試験範囲	プレゼンテーションについて 試験対策のポイント、確認			試験範囲説明			
第14回	試験実施	試験の実施			単位認定試験			
第15回	試験問題の解答、解説	試験問題の答え合わせと解説			試験解説			
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点60%、提出物&授業態度点30%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験		○		◎	◎		40	S(4):100点～90点
小テスト							-	A(3):89点～80点
宿題授業外レポート							-	B(2):79点～70点
授業態度	○	○	○	◎	◎		30	C(1):69点～60点
発表・作品							-	D:59点未満 未修得
演習		○		◎	◎		20	
出席			○				10	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	プレゼンテーション		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	「仕事の実践」の知識を活かしながら、プレゼンテーション能力の養成・向上を目指して、プレゼンテーションの基本的な知識を修得し、さまざまな場面で自分の考えをしっかりと相手に伝える積極的な意思表現ができるようになる。							
授業の一般目標	プレゼンテーションを行なうために必要な基本的な事柄を学ぶ。 プレゼンテーションの意義・目的、内容、進め方、ツールの活用など、基礎を学ぶと同時に、話し方などの口頭表現、身体表現を中心とした演習を行なう。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	YIC京都オリジナルテキスト							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	オリエンテーション	授業のルール・プレゼンテーションとは						
第2回	プレゼンテーションの目的	プレゼンテーションの種類・目的の明確化・情報収集の重要性						
第3回	プレゼンテーション準備と流れ1	聞き手の分析や主張の明確化、プラン作成やツールについて						
第4回	聴衆に好感を持たれる話し方の基本	聴衆に好感を持たれる話し方の基本を学ぶ			小テスト			
第5回	ストーリーの構成	序論・本論・結論について						
第6回	説得力のある伝え方	SDS法・PREP法・DESC法について						
第7回	自己紹介文作成	SDS法・PREP法・DESC法を用いた自己PR文の作成・発表						
第8回	感動を創造する伝え方	感情を込めた伝え方・感動エピソード発表			小テスト			
第9回	プレゼンテーション	テーマに沿ってプレゼンテーション発表 聞き手はチェックシートを用い、発表の仕方、内容をチェックする						
第10回	事業計画書の作成①	サロンコンセプト・ターゲット層・メニューの作成						
第11回	事業計画書の作成②	チラシ・プレゼン資料作成						
第12回	プレゼンテーション準備	最終準備・発表練習						
第13回	事業計画書に沿ったプレゼンテーション(テスト)	プレゼンテーション発表 聞き手はチェックシートを用い、発表の仕方、内容をチェックする						
第14回	事業計画書に沿ったプレゼンテーション(テスト)	プレゼンテーション発表 聞き手はチェックシートを用い、発表の仕方、内容をチェックする						
第15回	期末試験	筆記テスト						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、小テスト10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品					◎		評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ビジネス文書力		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	選択		開設次期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	講義形式・グループワーク・調べ学習・発表を授業で取り入れる 必要に応じて視聴覚教材使用 美しい字を書く事を授業内で実施 適宜課題提出							
授業の一般目標	日常的に美しい字を書けるようになる ビジネスで必要とされる漢字が書けるようになる ビジネスで必要とされる文章が書けるようになる							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	1. 授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	1. 接遇に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	1. 日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備考			
第1回	学習内容を理解して最終目標を立てる 学習の仕方を知り活用する	シラバスを基に学習内容を理解して自己を振り返り得手不得手を知る シラバスを基に学習到達目標を理解して自己目標を立てる						
第2回	TPOに合わせた言葉選び	桃尻語訳を参考に言葉選びの重要性を知り、自身に起こった出来事を文章にする						
第3回	言葉の正しい使い方	TPOに合わせた言葉の使い方を知り活用できるようになる						
第4回	文章の創造を楽しむ	キーワードの文節を基に、自身で文章を作成するポイントを活用できるようになる						
第5回	文章を読み取る事を楽しむ	文章の行間を読む楽しさを感じる事ができる						
第6回	要約をする-1	限られた文字数で要約をして、相手に伝わる文章を作成するポイントを活用できるようになる						
第7回	要約をする-2	要約のポイントを活用して印象に残った本・記事・作品などを要約して発表する						
第8回	改まった手紙を書く	時候の挨拶・前文・末文を使用して手紙を書く						
第9回	社外文書の書き方と ルールを知る	社外文書の書き方とルールを知り、実際に書けるようになる						
第10回	社外文書の書き方とルールを知り、実際に書けるようになる	社内文書の書き方とルールを知り、実際に書けるようになる						
第11回	電子媒体のビジネス文書 ファックスの送信	電子媒体のビジネス文書のルールとマナーを活用することができる ファックスを送信するときのルールを知り、実際に活用する事ができる						
第12回	郵便物のルール	郵便物のルールを知り活用することができる						
第13回	お礼状を作成する-1	学習した知識を活用してお礼状を実際に作成して郵送する スチューデントサロン・就職活動用						
第14回	お礼状を作成する-2	学習した知識を活用して卒業した高校へお礼状を送る-1						
第15回	お礼状を作成する-3	学習した知識を活用して卒業した高校へお礼状を送る-2						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ビジネス英語		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	サロンでの対応について色々な場面で会話を学ぶ。授業は簡単な会話を中心としビューティ分野に必要な表現も併せて学ぶ。							
授業の一般目標	英語でのコミュニケーションができるようになるのが目標。中学1・2年で学ぶ内容をカバーしながら、英語で基本的なやり取りができる力を身につける。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備考	
第1回	事前テストの実施	英単語、レベルチェック						
第2回	Nice to meet you	自己紹介ができる。 初対面の挨拶ができる。						
第3回	How' re you this morning?	相手の調子を尋ねたり、自分の調子を言うことができる。あいづちを打つことができる。						
第4回	What do you do in your free time?	余暇の過ごし方について尋ねたり、答えたりすることができる。種類を尋ねたり、答えたりすることができる。						
第5回	Where' re you from?	天気的话题をきっかけに見知らぬ人と会話を始めることができる。出身地を尋ねたり、答えたりすることができる。						
第6回	How much is it?	値段を尋ねたり、答えたりすることができる。 数字を正しく言えることができる。						
第7回	May I have your name, please?	受付で約束があることを伝えることができる。 位置を表す表現を使うことができる。						
第8回	Where' s the nearest bookstore?	道を尋ねたり、答えたりすることができる。						
第9回	How was your weekend?	趣味について尋ねたり、答えたりすることができる。						
第10回	Nice talking with you.	自然に会話を終わらせることができる。 色々な別れの挨拶をすることができる。 別れの挨拶に返答することができる。						
第11回	Hou about some paperbacks?	第三者の誕生日や好きなことを尋ねたり、答えたりすることができる。 提案する表現が使える。 月や日付を正しく言えることができる。						
第12回	Do you have a fitness center?	Haveを使って設備やサービスについて質問できる。 序数を使って何階かを伝えることができる。 Inやnext toをつかって場所を伝えることができる。						
第13回	業務内で想定される会話	ビューティ業界に就職し、海外のお客様をお迎えした際想定される会話の実践						
第14回	色々な場面の会話	自分が伝えたい事を英語で伝えられるようになる						
第15回	振り返りテストとECPTテストの実施	期末試験実施						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	イベントプロデュース		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義・実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	具体的なイベント活動の企画・運営を通して企画力・実行力・協調性など社会人基礎力をつける。 イベントを企画する段階から時間軸のプロセスを経て、「最終的な目的達成」のために最高のパフォーマンスを発揮できるよう、イベントのノウハウや、プランニング方法等を実際のイベント運営を通して、具体的に学び、これからのイベントの方向性を探っていく。							
授業の一般目標	イベントの企画から実際にイベント運営を体験し、制作ノウハウを身につける。 自分達の考えたイベントが来場者にどう評価されたかを調査・分析し、グループワークで各自が役割に対する責務を果たし、チーム全体の力を発揮することができる。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	ベント活動の意義や運営の仕方を理解し、説明ができる							
☐ 思考・判断の観点	イベントの企画や目的を考え、工夫ができる							
☐ 関心・意欲の観点	ほりかわ祭実行に向け、意欲を高め団結力・協調性を高める							
☐ 態度の観点								
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
イベントの企画から運営を学び、実践し協調性や社会人基礎力を身に着ける事ができる								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容			備 考		
第1回	授業ガイダンス		2020年度のイベントについて					
第2回	イベントとは?		イベントの意義について					
第3回	イベントの目的		イベントには、必ず実施する側に明確な「目的」があって、その手段として行える					
第4回	プランニングと運営について		プランニング（計画生）の重要性と運営について覚える					
第5回	イベント企画会議(1)		実際の行事のの企画会議を実施する。（ほりかわ祭）					
第6回	イベント運営のグループワーク(1)		イベント運営とグループワーク（ほりかわ祭）					
第7回	具体的なイベント運営のシミュレーション(1)		運営シュミレーション（ほりかわ祭）					
第8回	イベント運営の実際(1)		ほりかわ祭について（1）					
第9回	イベントプロデュースの分析と展望（1）		ほりかわ祭について（2）					
第10回	イベント企画会議(2)		実際の行事のの企画会議を実施する。（就職egg）					
第11回	イベント運営のグループワーク(2)		イベント運営とグループワーク(就職egg)					
第12回	具体的なイベント運営のシミュレーション(2)		運営シュミレーション(就職egg)を行う					
第13回	イベント運営の実際(2)		就職eggについて（1）					
第14回	イベントプロデュースの分析と展望（2）		就職eggについて					
第15回	まとめ		まとめ					
成績評価方法								
単位認定 60点以上 各イベントの参加状況・運営・実施状況にて総合判断								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							-	S(4):90点以上
小テスト							-	A(3):80点以上
宿題授業外レポート							-	B(2):70点以上
授業態度	○		○	◎			30	C(1):60点以上
発表・作品	○	◎	○		◎		40	D:59点未満 未修得
演習							-	
出席			◎	◎			30	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ボランティア活動		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生/2年生	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	前期/後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ボランティアの理念、目的、意義、現状や問題点を講義する。ボランティアの理念、目的、意義、現状や問題点を学習した後に、学生の主体的な計画の下にボランティア活動を体験する。							
授業の一般目標	ボランティアの理念を説明できる。ボランティア活動の基本原則を説明できる。実際のボランティア活動を説明できる。ボランティア活動参加の意義を説明できる。ボランティア活動に参加する。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
☐ 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
☐ 態度の観点	日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	ボランティアの理念	(無償性、自主性、公益性)						
第2回	ボランティア活動の基本原則	自分からすすんで行動する—ともに支え合い—学び合う「見返りを求めないよりよい社会をつくるを学ぶ						
第3回	実際のボランティア活動	実際のボランティア活動について話し合う						
第4回	ボランティア参加の意義	ボランティア活動は、他人同士がいろいろな場でふれあい、つながりを持ち、お互いに学びあって生きる喜びを確かめ合う機会を与えるものであることを確認する						
第5回	自分にあったボランティア活動は?	自分にあったボランティア活動について考察する。						
第6回	ボランティア活動	ボランティア活動に参加						
第7回	ボランティア活動	ボランティア活動に参加						
第8回	ボランティア活動	ボランティア活動に参加						
第9回	ボランティア活動	ボランティア活動に参加						
第10回	ボランティア活動	ボランティア活動に参加						
第11回	ボランティア活動	ボランティア活動に参加						
第12回	ボランティア活動	ボランティア活動に参加						
第13回	ボランティア活動	ボランティア活動に参加						
第14回	ボランティア活動	ボランティア活動に参加						
第15回	振り返り	レポート作成						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				